

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会
(第6回)

次 第

議 事

- (1) 山岳トイレ等に関する検討課題の整理について
- (2) 大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準の検討について
- (3) インバウンド向け普及啓発動画の作成方針案について

報 告

各構成員における取組状況及び取組予定について

- (1) 白雲岳避難小屋付帯トイレ等の再整備について
- (2) 旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果の検証について
- (3) 黒岳トイレの処理方式の改善に向けて
- (4) 令和6年度忠別岳避難小屋利用状況調査結果について
- (5) トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和6年度の取組みについて
- (6) 2024年美瑛富士・携帯トイレへの取り組み10年目の活動報告について
- (7) 大雪山・沼ノ原大沼野営指定地の2024年トイレ事情調査報告について
- (8) 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及キャンペーン（富良野岳）について
- (9) 携帯トイレ及び回収ボックスのピクトグラム統一について
- (10) 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及目標に応じた効果検証について
- (11) その他

【配付資料】

次第・出席者名簿

資料 1 山岳トイレ等に関する検討課題の整理

資料 1 別紙 大雪山国立公園山岳地域におけるトイレ及び携帯トイレブース、
登山口別の回収ボックス設置状況

資料 2 大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準（素案）

資料 3 インバウンド向け普及啓発動画の作成方針案について

資料 4-1 白雲岳避難小屋付帯トイレ等の再整備について（環境省）

資料 4-2 白雲岳避難小屋トイレ改修案（北海道山岳整備）

資料 5 令和 6 年度大雪山国立公園旭岳周辺登山道における携帯トイレブース
設置効果検証業務結果概要（環境省）

資料 6 黒岳トイレの処理方式の改善に向けて（上川総合振興局）

資料 7 忠別岳避難小屋 R6 利用状況調査結果（上川総合振興局）

資料 8 トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和 6 年度の取組みについて
（十勝総合振興局、環境省）

資料 9 2024 年 美瑛富士・携帯トイレへの取り組み 10 年目の活動報告
（美瑛富士トイレ管理連絡会）

資料 10 大雪山・沼ノ原大沼野営指定地の 2024 年トイレ事情調査報告書
（山のトイレを考える会）

資料 11 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及キャンペーン（富良野岳）について（大連協）

資料 12 携帯トイレ及び回収ボックスのピクトグラム統一について（大連協）

資料 13 大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及目標に応じた効果検証について（大連協）

資料 13 別紙 1 令和 6 年度登山口別携帯トイレ持参率（大連協）

資料 13 別紙 2 令和 6 年度巡視の野外し尿痕数等結果報告（大連協）

参考 1 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置について
（令和 6 年 5 月 17 日改定版）

令和7年2月17日

大雪山国立公園連絡協議会 大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会（第6回）
出席者名簿

【構成員】

名称	出席者（敬称略）	備考
上川中部森林管理署	総括森林整備官 加藤 和宏 地域統括森林官 石井 誠 首席森林官 佐藤 泉	会場
上川南部森林管理署	森林情報管理官（管理） 米田 和敏 総務グループ（管理） 田辺 結葉	WEB
十勝西部森林管理署東大雪支署	—	欠席
かみふらの十勝岳観光協会	事務局長 長田 公一	WEB
（株）りんゆう観光	事業所長 山崎 弘二	WEB
道北バス（株）	—	欠席
大雪と石狩の自然を守る会	運営委員 寺前 博己	会場
十勝自然保護協会	理事 植田 幹夫	会場
北海道大学大学院環境科学研究院	教授 渡邊 悌二	欠席
北海道大学大学院農学研究院	教授 愛甲 哲也	会場
北海道上川総合振興局	環境生活課 主査（山岳環境） 中島 浩之	会場
北海道十勝総合振興局	環境生活課 係長 小川 明子 主事 番匠 絵美	WEB
富良野市	商工観光課 観光係 早川 佳尋	WEB
上川町	産業経済課 課長補佐 工藤 将貴 産業経済課 商工観光グループ 主事 内海 卓也	会場
東川町（旭岳ビジターセンター）	所長 田渕 浩 大塚 航平	WEB
美瑛町	商工観光交流課 主事 柳田 瑠介	WEB
上富良野町	主事 安彦 嘉浩	WEB
士幌町	—	欠席
上士幌町	主査 須田 修	WEB
鹿追町	商工観光課観光振興係長 常清 拓也	WEB
新得町	主事 工藤 励斗	WEB
層雲峡ビジターセンター	インタープリター 佐久間 弘	会場
NPO 法人かむい	代表理事 濱田 耕二	WEB
Asahidake Trail Keeper	代表 藤 このみ	会場
NPO 法人大雪山自然学校	代表理事 荒井 洋一 廣瀬 さつき	WEB
勤労者山岳連盟（道央地区）	副理事長兼自然保護委員長 伊吹 省道	WEB
合同会社北海道山岳整備 一般社団法人大雪山・山守隊	代表社員 岡崎 哲三 事務局 下條 典子	WEB

山樂舎 BEAR	代表	佐久間 弘	会場
大雪山倶楽部		西元 徹	WEB
TREE LIFE	—		欠席
山のトイレを考える会	代表 事務局長	小枝 正人 仲俣 善雄	会場
美瑛山岳会	—		欠席
山岳レクリエーション管理研究会	事務局長	山口 和男	WEB
NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター	—		欠席
十勝山岳連盟	会長	齊藤 邦明	WEB

【オブザーバー（出席団体のみ記載）】

名称	出席者（敬称略）	備考
大雪山国立公園パークボランティア連絡会	会長 垣内 雅人	会場
一般社団法人 ひがしかわ観光協会	事務局長 高橋 匡	WEB
上富良野十勝岳山岳会	会長 井上 文雄	会場

会場出席 12 団体／ 15 名

WEB 出席 19 団体／ 24 名

【事務局】

所属	出席者	備考
北海道地方環境事務所 大雪山国立公園管理事務所	所長 杉本 頼優 国立公園利用企画官 高橋 広子 上席国立公園管理官 友野 雄己 係員 森田 夕貴	
東川管理官事務所	国立公園管理官 森田 由女花 自然保護官補佐 渡邊 あゆみ	
上士幌管理官事務所	国立公園管理官 永田 拳吾 自然保護官補佐 上村 哲也	

■山岳トイレ等に関する検討課題の整理

検討課題	主な取組項目及び目標	取組主体	～2023(R5)年度	2024(R6)年度【実施・検討状況】	2025(R7)年度	2026(R8)年度～	備考
1. 山岳トイレ等の利用環境づくり							
(1)山岳トイレ等の配置計画の検討	山岳地域におけるトイレ及び携帯トイレブースの設置のあり方について、自然環境及び景観への影響、避難小屋及び野営指定地等との関係性、利用形態及び利用者数、維持管理体制の確保等を総合的に勘案した上で、全体的な配置計画を検討し、自然環境保全及び適正な利用環境を確保する。		・山岳トイレ等検討作業部会等を通じ、山岳トイレ等に関する基本的考え方、検討課題、山岳トイレの設置状況等について整理し共有。	(↓各項ごとに記載)	(↓各項ごとに記載)	(↓各項ごとに記載)	
1)配置基準の整理		事務局（環境省）	－	・配置基準作成の進め方提示・意見照会を行い、基準案についての議論を進める	・配置基準案の作成、運用開始	・配置基準の運用 ・必要に応じて基準の見直し	
2)配置計画の作成検討		事務局（環境省）	－	－	・配置基準の運用過程で作成が必要となった場合、作成検討	同左	
3)回収ボックス設置箇所の検討	・回収ボックス等の持続可能な維持管理体制の構築	事務局（環境省）	－	・登山口別の回収ボックス設置状況（別紙2(2)）作成による情報整理	・設置状況及び山岳トイレ等の配置基準を踏まえ、追加で設置を要する箇所の検討		
(2)野営指定地における現状把握及び課題整理							
1)裏旭野営指定地	・現状調査	裏旭野営指定地携帯トイレ検討連絡会	・R3：登山者に対し「携帯トイレ使用に対する意識調査」及び「裏旭での排泄状況状態把握調査」を実施。報告書を作成・公開URL; http://www.yamatoilet.jp/mtclean/uraasa_hi_booth2021.pdf	－	－		
	・携帯トイレブースの設置効果検証、維持管理方法の検討	環境省	・R4,R5：「旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」により、旭岳周辺登山道及び裏旭野営指定地での携帯トイレブースの具体的な設置方法と維持管理方法について検討を実施	・「旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」の過去2ヶ年度の内容を踏まえ関係者も交えた意見交換会を実施（4/12開催）。 ・6月下旬～10月上旬の間、裏旭野営指定地及び裾合分岐へ携帯トイレブースを設置し効果検証 ・裏旭野営指定地における利用者数、トイレの利用状況、周辺植生影響等の調査を実施 ・本年度業務結果を踏まえ、今後の方針を検討（第6回部会）	・方針に沿った具体的な対応を検討する	同左	
2)沼ノ原大沼野営指定地	・携帯トイレブースの設置効果検証	NPO法人かむい	・R4：携帯トイレの所持及び利用、し尿問題の解決方法の検討のため、テント式仮設携帯トイレブースの設置を予定していたが、未実施	－			
	・利用状況調査等	山のトイレを考える会	・R5：層雲峡本流林道の通行止めにより利用者がほぼいないため中止	・「取組主体内部で方針を決定する根拠を得る為」携帯トイレブースの設置の必要性について検討する為に登山者の野営地利用状況、携帯トイレ使用の意識、排泄状況の調査を7月に実施。調査報告書を作成。			
3)トムラウシ南沼野営指定地	・取組結果の評価調査	環境省（南沼汚名返上プロジェクト）	・R5年度より、ドローンを活用した痕跡調査を試行。	・ドローン等による痕跡調査の継続 ・植生モニタリングの手法検討及び試行			
4)美瑛富士野営指定地	・取組結果の評価調査	環境省	－	・ドローンによる踏み分け道のモニタリング	・同左 ・必要に応じて対策を実施	・同左 ・必要に応じて対策を実施	
(3)野営指定地以外における現状整理及び課題整理							
	(共通) ・し尿痕調査 ・踏み分け道モニタリング						
1)黒岳7合目	・意見交換	環境省	・R4：山岳トイレ等の設置の可能性を検討するため、携帯トイレブースの試行的な設置について関係者間で意見交換を行ったが、維持管理者の不在により断念	－			
	・現状調査	事務局（環境省）	・R4：携帯トイレ普及キャンペーンにおいて、利用者へのアンケート調査を実施				
2)トムラウシ・カムサンケナイ川沿い	・携帯トイレブースの設置効果検証	環境省（南沼汚名返上プロジェクト）	・R4年度より、仮設携帯トイレブース設置を継続試行	・仮設携帯トイレブース設置を継続			

検討課題	主な取組項目及び目標	取組主体	～2023(R5)年度	2024(R6)年度【実施・検討状況】	2025(R7)年度	2026(R8)年度～	備考
2. トイレ施設の維持及び改善							
(1)黒岳石室横トイレの改善策再整備	・既存施設の維持管理、改修、処理システムの見直しの必要性、協力金を活用した維持管理体制等、課題事項の全体を整理し、改善に向けた対応策について関係者間で協議を進める。	北海道	・再整備に向け、処理方式を検討中。	・太陽光パネル＆バッテリーを設置し、換気ファンの稼働を再開した。(工事費用については上川地区登山道等維持管理連絡協議会が負担)	・便槽のヒーター回線の状況を踏まえ、太陽光パネル、バッテリー等を増設し、試験的に1ブースのみ便槽を加温し本来のバイオ処理を目指す。 ・モンライト処理水質改善の検討		
(2)白雲岳避難小屋付帯トイレの再整備	・立地条件及び利用条件等を踏まえ、自然環境の保全及び持続的な維持管理が可能となる再整備を検討。 ・再整備後のトイレの稼働状況について評価検証し、他の常設トイレの再整備に反映させる。	環境省	・再整備に向け、土壌処理方式の導入の可能性について検討する設計業務を実施し、設計案について山岳トイレ等検討作業部会の中で議論。	・土壌処理方式の導入による再整備の検討を取り止め、今後の方針・スケジュールについては今後検討	汲取り式での改修設計に当たり、定期的な汚泥運搬手段の確保とその結果も踏まえた維持管理体制の確保について、関係者間の議論・検討を進める		
(3)忠別岳避難小屋付帯トイレの再整備	・立地条件及び利用条件等を踏まえ、自然環境の保全及び持続的な維持管理が可能となる再整備を検討。 ・再整備後のトイレの稼働状況について評価検証し、他の常設トイレの再整備に反映させる。	環境省	・再整備に向け、土壌処理方式の導入の可能性について検討する設計業務を実施し、設計案について山岳トイレ等検討作業部会の中で議論。	・土壌処理方式の導入による再整備の検討を取り止め、今後の方針・スケジュールについては今後検討	汲取り式での改修設計に当たり、避難小屋を含めた維持管理体制の確保について、関係者間の議論・検討を進める		
(4)ヒサゴ沼避難小屋付帯トイレの改善策	・既存施設の維持管理、処理システムの見直しの必要性、課題事項の全体を整理し、改善に向けた対応策について関係者間で協議を進める。	北海道	－	・7月より、避難小屋の利用状況把握調査を実施	・環境省の検討状況を踏まえ、利用状況把握調査実施の検討		
		北海道	・R1：屋根、外壁等改修	・関係者間で再整備に向けた検討を実施。			
(5)上ホロカメットク山避難小屋付帯トイレの改善策	・既存施設の維持管理及び処理システムの見直し	北海道	・適宜地元山岳会による修繕	・関係者間で再整備に向けた検討を実施。	・利用状況把握調査を実施予定		
3. 広報、普及啓発							
(1)携帯トイレ利用推進に関する情報発信・普及啓発活動	・来訪者が携帯トイレを認知、持参し、使用するための情報発信、普及啓発	事務局（環境省）及び構成員	・携帯トイレ普及キャンペーンの実施 ・HPやSNSでの情報発信 ・利用拠点施設における周知 ・シャトルバス内での携帯トイレ普及宣言ポスターの掲示 ・携帯トイレの使い方のレクチャーの実施 ・旭岳ロープウェイ駅及びトムラウシ短縮登山口における無人による販売・配布の実施。	・携帯トイレ普及キャンペーンの実施継続 ・登山口（有人）での販売体制について、登山口毎に検討を実施。 ・携帯トイレの未利用者に向けた携帯トイレブースや回収ボックスの適切な利用方法について、HP等で情報発信を行うとともに、不適切な利用の防止に向け効果的な啓発方法を検討。			
(2)「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」等に関する効果検証	・携帯トイレの啓発資料を登山者へ配布	山のトイレを考える会	・R元年～R5年度で「山のトイレマップ」（啓発資料）を毎年大雪山山麓の宿泊施設、ビジターセンター、森林管理事務所等に配備して登山者へ配布。	・R6年度においても継続。大雪山地域では年間約7,000部を配布予定。			
	・毎年度末に、「大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言」の「携帯トイレ普及目標」に応じた効果検証を実施。次年度の取組み内容に生かす。	環境省事務局（環境省）	・携帯トイレブースの設置数、利用状況、野外し尿確認状況、携帯トイレ販売数、パートナー数等、一連の目標指標について、継続的にデータ収集を実施し、効果検証を実施。	・携帯トイレブースの設置数、利用状況、野外し尿確認状況、携帯トイレ販売数、パートナー数等、一連の目標指標について、継続的にデータ収集を実施し、効果検証を継続して実施。 ・R5年度結果を踏まえ、R6年度取組みを検討。実施。			
(3)携帯トイレ普及促進に関するパートナーシップの強化	・パートナーシップ拡大にむけた事業者との調整	環境省事務局（環境省）	・大雪山オリジナル携帯トイレの民間事業者による一括受注の支援。 ・パートナーシップの強化については、大雪山国立公園周辺における拠点施設（駅、空港、観光施設等）にはたらきかけを実施。	・パートナーシップの一層の強化にむけ、拠点施設へのはたらきかけを継続。 ・パートナーシップ加入企業から現行制度の課題や改善点を聞き取る等して、制度の促進に向けた改善方策の検討を行う。あわせて、携帯トイレ普及促進に向けて、本部会において、働きかけが効果的と考えられる携帯トイレ販売希望箇所のリストアップを行い、販売や利用促進に関する情報発信について具体の相談を開始する。			
(4)携帯トイレ普及促進に関するインバウンド対応	・外国人にも携帯トイレを利用してもらうための情報発信 ・外国人に向けた普及啓発	事務局（環境省）	・大連協SNSでの情報発信	・大連協HPの英語サイトの制作 ・携帯トイレ関連の英語表記を統一 ・携帯トイレ関係のピクトグラムを決定（今回部会） ・携帯トイレの使用方法についての動画（試作版）制作（今回部会） ・大雪山グレードマップ（英語版）裏面、大雪山の保全ルール・携帯トイレ使い方等の掲載	・英語版簡易リーフレットの制作検討（グレードマップのうら面）（「大雪山の保全ルール」の内容を踏まえた「英語版WEBサイト」「携帯トイレの使用法の動画」「英語版山のトイレマップ」が完成したのちに制作）		
		旭岳ビジターセンター					
		Asahidake trail keper		・携帯トイレ使用方法の動画（2分程度）を作成			
(5)常設トイレや携帯トイレブースがない場所でのマナーについて	・マナーの整理	大連協			・マナーの検討の必要性について議論		

<別紙>大雪山国立公園山岳地域におけるトイレ等設置状況

●携帯トイレブース

No.	名称	場所	設置年（西暦）	主な改修年	規模（面積）	基数	事業執行の有無	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	課題	対応方針	実施計画 ○：調査・計画・設計等 ●：整備（基盤の整備） ◎：維持管理（補修・点検）					備考
													R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度以降	
													<常設>					
1	旭岳石室携帯トイレブース	旭岳石室	2002年			1	有	北海道	常設型	・直営 ・東川町や民間団体による巡視時に点検・清掃支援	石室を含めた当該場所での今後の設置継続の必要性	・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	R3年度に交付金事業で改修実施
2	ニベソツ山前天狗携帯トイレブース	前天狗野営指定地	2002年			1	無	北海道	常設型	ひがし大雪自然ガイドセンターに委託		・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	
3	トムラウシ山南沼野営指定地携帯トイレブース	南沼野営指定地	2002年、2019年			2	有	北海道	常設型	新得山友会に委託		・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	
4	美瑛富士避難小屋携帯トイレブース	美瑛富士避難小屋	2019年	-	1.5×0.9＝1.35㎡	1	有	環境省	常設型	・美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会とR元年に協定を結び協働で維持管理 【美瑛町】 ・施設の軽微な修繕 ・施設の冬囲いの取り外し(6月下旬)、取り付け(9月末)（協力：環境省） ・白金温泉公衆便所に設置している携帯トイレ回収ボックスの管理 ・利用上の危険が認められる場合の施設の供用中止措置 【美瑛富士トイレ管理連絡会】山岳9団体で構成 ・施設の点検(7月: 第2週～毎週末、8・9月: 各1回)及び清掃 ・施設周辺の清掃		・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	・2020年度に、新型コロナウイルス感染防止対策の一環として、携帯トイレ専用ブースを設置
7	黒岳石室携帯トイレブース	黒岳石室	2020年			2		北海道	常設トイレ内	・上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・黒岳石室の管理と合わせて定期的に点検・清掃を実施		・管理を継続			◎	◎		
8	赤岳コマクサ平携帯トイレブース	コマクサ平	2022年					NPO法人かむい	常設型	・直営 ・登山道巡視と合わせて定期的に点検・清掃を実施		・管理を継続			◎	◎	◎	
<定期的設置>																		
5	高原温泉エゾ沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（エゾ沼）	2020年		1.4m×2.1m＝2.94㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が管理 ・沼めぐり登山コースの巡視と合わせて定期的に点検、清掃を実施		・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	
6	高原温泉緑沼携帯トイレブース	沼めぐり登山コース（緑沼）	2021年		1.4m×1.9m＝2.66㎡	1	無	環境省	仮設組立型・木造	・ヒグマ情報センター管理運営業務請負者が管理 ・沼めぐり登山コースの巡視と合わせて定期的に点検、清掃を実施		・管理を継続	◎	◎	◎	◎	◎	

No.	名称	場所	設置年（西暦）	主な改修年	規模（面積）	基数	事業執行の有無	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	課題	対応方針	実施計画					備考
													○：調査・計画・設計等 ●：整備（基盤の整備） ◎：維持管理（補修・点検）					
													R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度以降	
< 試行設置 >																		
1	赤岳 9 合目携帯トイレブース	赤岳 9 合目	2019年		1.1m×1.1m＝1.21㎡			大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・直営（事務局：環境省） ・設置期間は、9/17～25（計 9 日間）	・現在は携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置しているが、当該場所での今後の設置の必要性等について整理が必要	・必要性、維持管理方法等の検討	○	○	○			
2	中岳温泉携帯トイレブース	中岳	2019～2023年			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・直営 ・R5年度の設置期間は、7/12～8/3、9/8～10/5（計49日間）	・現在は携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置しているが、旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要	・必要性、維持管理方法等の検討	○	○	○			・令和 6 年度は未設置
3	富良野岳携帯トイレブース	標高1580m地点（通称お花畑）	2023年、2024年			1	-	大雪山国立公園連絡協議会	仮設テント式	・関係機関と協働で管理 ・R6年度設置期間は、6/27～8/19（計54間） ・7/20及び7/21等に携帯トイレ普及キャンペーンを実施	・R5年度から、携帯トイレ普及宣言推進事業の一環として設置。当該場所での必要性等について整理が必要。	・必要性、維持管理方法等の検討		○	○			
4	トムラウシ山登山道	カムイサンケナイ川沿い	2022年			1	-	環境省	仮設テント式	・R4年度～シーズン中のみ試行的設置（職員実行）		・R6年度においても設置・管理を継続	-	-	◎	◎	◎	
5	旭岳 9 合目携帯トイレブース	旭岳 9 合目	2022年、2023年			1	-	環境省		・直営 ・R4～5年度に同事業により試行的設置 ・R6年度は未設置	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要	・R4～R6年度の 3 カ年をかけて、設置の必要性、可能性及び維持管理方法等について、検討を行う。 （「旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」）	○	○	○	○		・令和 6 年度は未設置
6	裾合分岐携帯トイレブース	裾合分岐	2024年			1	-	環境省	セルフ組立式パーテーション	・直営 ・R6年度に同事業により試行的設置	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要	・本年度業務にて、設置の必要性、可能性及び維持管理方法等について、検討を行う。（「旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」）			○	○		
7	裏旭野営指定地携帯トイレブース	裏旭野営指定地	2023年、2024年			1	-	環境省		・直営 ・R5～6年度に同事業により試行的設置	・旭岳周辺登山道における他の場所でのブース設置の検討に合わせて、当該場所での必要性等について整理が必要	・R4～R6年度の 3 カ年をかけて、設置の必要性、可能性及び維持管理方法等について、検討を行う。 （「旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務」）		○	○	○		

●トイレ

名称	場所	設置年（西暦）	改修年	規模（面積）	基数	事業執行の有無	設置者	設置方式・構造	管理主体・管理状況	課題	対応方針	実施計画 ○：調査・計画・設計等 ●：整備（基盤的整備） ◎：維持管理（補修・点検）					備考
												R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度以降	
<常設>																	
黒岳石室トイレ	黒岳石室		2003年		2		北海道	常設、生物処理方式（コンポスト式バイオトイレ）	・ 4 ブース（うち、現在 2 ブースは携帯トイレブース） ・ 上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理するとともにし尿汲み取り等は民間団体に委託（NPOかむい） ・ 黒岳石室の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（りんゆう観光） ・ 利用者協力金500円／回を徴収し、し尿運搬費用に充填	・ 処理方式の改善			◎	◎		・ 層雲峡勇駒別線歩道の付帯施設 →利用者協力金500円/回を徴収 ・ R4年度に山のトイレを考える会が改善に向けた現地調査を実施	
白雲岳避難小屋トイレ	白雲岳避難小屋	1985年					北海道	常設、汲取り式	・ 上川地区登山道等維持管理連絡協議会と協力し管理 ・ 白雲岳避難小屋の管理と合わせて日常的に点検・清掃を実施（北海道山岳整備）		・ 再整備手法・方針、汚泥搬出方法を今後検討						
忠別岳南避難小屋トイレ	忠別岳南避難小屋	1985年					北海道	常設、汲取り式	・ 直営 ・ 白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援		・ 再整備手法・方針を今後検討						
ヒサゴ沼避難小屋トイレ	ヒサゴ沼避難小屋	1982年	2019年		1（2穴）	有	北海道	常設、汲取り式	・ 直営 ・ 白雲岳避難小屋管理人による巡視時に点検・清掃の支援	・ 処理方式の改善		◎	◎	◎	◎	◎	
上ホロカメットク避難小屋トイレ	上ホロカメットク避難小屋	1980年			2	有	北海道	常設、汲取り式	・ 直営 ・ 地元山岳会による巡視時に点検・清掃の支援	・ 処理方式の改善				◎	◎	◎	・ 維持管理点検 1 回／月（7 月～9 月）
<仮設>																	
クチャンベツ登山口仮設トイレ	クチャンベツ登山口（6～10月）						上川町	仮設式（町備品）	・ 2ブースのうち1ブースを携帯トイレブースとして運用（清掃管理業務は層雲峡を美しくする会）	・ 運用方法について要検討		◎		◎			
愛山溪温泉登山口仮設トイレ	愛山溪温泉登山口（6～11月）						上川町	仮設式（リース）	・ 清掃管理はりんゆう観光		・ 再整備手法・方針、汚泥搬出方法を今後検討	◎	◎	◎			
赤岳銀泉台仮設トイレ	銀泉台登山口（マイカー規制期間中）						高原温泉・銀泉台地区自動車利用適正化対策連絡協議会	仮設式（リース）	・ 清掃管理は層雲峡を美しくする会		・ 再整備手法・方針を今後検討	◎	◎	◎			

●登山口別の回収ボックス設置状況

[illegible]

[illegible]

■大雪山国立公園における山岳トイレの配置基準について（素案）

【目的・主旨】

山岳トイレの諸課題や改善策について、個別の地点や施設ごとの議論を進めていく上でも重要な、山岳域全体での配置の見通しや計画を立てることを目的とする。

本基準に従って山岳トイレが配置されるよう、施設の設置や改修を検討する際に指標として活用する。

【留意事項】

- ・本基準への適合度が高い場合に必ず配置を検討するものではない。
- ・現状の避難小屋及び野営指定地等の位置や規模は必ずしも前提とはせず、それらの適切さについても将来的には考慮が必要。

【基準項目案】

1. 自然環境や景観への影響の配慮
 - 1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること
 - 1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと
 - 1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと
 - 1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮
2. 維持管理体制の確保
適切な処理方法に応じた維持管理体制が確保できること
3. 位置関係や利用状況の考慮
 - 3-1 登山口／歩道の起点
 - 3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）
 - 3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐
 - 3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）
 - 3-5 利用者数を考慮
 - 3-6 配置の間隔（標準コースタイムで2時間程度）
4. 携帯トイレの入手・回収
携帯トイレの入手・回収体制を整えることが望ましい

■基準の解説

1. 自然環境や景観への影響の配慮

1-1 景観及び自然環境の保全が主目的であること

植生の悪化、踏み分け道の発生等、自然環境へ悪影響が発生している箇所の保全を主目的とする。

1-2 設置物が展望方向等、風致景観上の支障になる位置・規模ではないこと

設置によって主要な展望方向への眺望を阻害する位置・規模とならないようにする。

1-3 設置によって脆弱な生態系への影響が生じる場所ではないこと

高山植物帯など、施設の利用や設置そのものによって生態系への影響が懸念される場所は避ける。

1-4 沼・沢・湿地・水場や流水による汚染など、し尿の負荷をかけてはいけない場所に考慮

し尿による汚染で自然環境や公園利用者への悪影響が懸念される場所、融雪等の流水によってし尿が流される場所は避ける。

2. 維持管理体制の確保

適切な処理方法に応じた維持管理体制が確保できること

常設トイレの各種処理方法ごとの適切な汚泥処理や常設トイレ及び携帯トイレブースの使用説明・巡回・清掃頻度、これら作業時の安全確保など、適切な維持管理体制の構築が重要。

3. 位置関係や利用状況

3-1 登山口／歩道の起点

天人峡温泉や愛山溪温泉など、登山前後に使用できる位置

3-2 宿舎／避難小屋／野営場／園地／休憩所／ロープウェイ駅舎等施設（公園事業）

十勝岳避難小屋、黒岳リフトの終点など、登山者による利用が多い施設や地点

3-3 野営指定地／休憩ポイント／分岐

公園事業施設以外の場所で、野営指定地や登山者がよく休憩ポイントとして使用する場所

3-4 大雪山グレード（利用体験ランクの低い数字に考慮）

観光利用者向け探勝ルートグレード1や軽登山ルートグレード2などは、グレードの高い登山道より、一定程度整った利用体験環境となるよう考慮する

3-5 利用者数を考慮

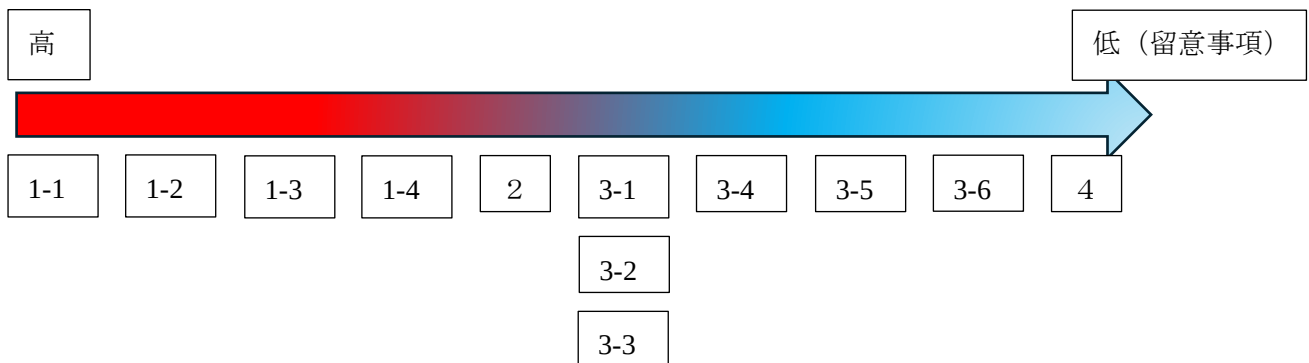
登山者数や避難小屋等の施設利用者数が多い場所への配置は少ない場所より必要性が高く、一方で、トイレ配置により利用環境が整うことで登山者数が過剰になる懸念がある場所への配置は慎重に検討する。

3-6 配置の間隔（標準コースタイムで2時間程度）

4. 携帯トイレの入手・回収

登山口や携帯トイレブース周辺等にて携帯トイレを入手できること及び回収ボックス設置等の回収体制を整っていること。また、新たに携帯トイレを設置する場合には入手・回収のしやすさも考慮する。

■優先順位付け



■使用イメージ

既存地図を活用し、常設トイレないし携帯トイレブースが必要と思われる個所への設置を検討する際に本基準を指標として検討する。今後、使用イメージ図を作成することを検討中。

インバウンド向け普及啓発動画の作成方針案について

大雪山国立公園連絡協議会

1. 経緯

コロナ収束後、旭岳周辺でもインバウンド登山者が増加している。インバウンド登山者による大雪山の保全ルールの認知度は低く、さらに、携帯トイレの存在や使い方を知らない登山者が目立つ。旭岳周辺では登山口で呼びかけや説明を行っているが、すべての登山者に周知はできていない。

このような状況を受け令和5年度に、環境省、旭岳ビジターセンター、山のトイレを考える会、大雪山自然学校、大雪山自然学校、adventure hokkaido が集まり、現状や課題、必要と思われる取り組みについて意見交換を行った。

そこで、様々な国から訪れるインバウンド向けにはビギナーレベルの英語による周知、山に登る前に自国で確認する方法、動画を使った周知の必要性などについて意見が出された。

2. 動画作成について

意見交換会では以下のようなご意見が出された。（一部抜粋）

- Tips for Hikers Daisetsuzan National Park (<https://www.youtube.com/watch?v=YZa9JXyF1Mw>) の動画のような携帯トイレの使用方法だけ伝える動画ではなく、なぜ携帯トイレを使用する必要があるのか必要性の説明が必要。
- 携帯トイレに関する内容だけの動画では見られないため、「水・避難小屋・ヒグマ・携帯トイレ」など“自ら調べないけど、知らなきゃいけない情報”を入れた2分以内の動画を作成するのが良い。堅苦しくなく、面白い動画が良い。
- 「～してください。なぜなら～」等の表現で簡潔に伝える動画が必要。

以上により新たに作成する動画では、携帯トイレを使う理由の説明をメインにし、さらに、SNS等にも投稿できるように短めの動画を作成することを検討する。

本部会では簡単に作成したイメージ動画を視聴しご意見をいただき、来年度中の作成を目指す。

白雲岳避難小屋付帯トイレ等の再整備について

環境省大雪山国立公園管理事務所

1. 対象施設

白雲岳避難小屋付帯トイレ、忠別岳避難小屋付帯トイレ（避難小屋の再整備も含む）

2. 経過

○令和 4 年度大雪山国立公園白雲岳避難小屋公衆便所及び忠別岳避難小屋設計業務
令和 4 年 9 月に再整備に向けた設計業務に着手

○大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会等での検討

- ・第 2 回作業部会（令和 5 年 2 月）、第 3 回作業部会（令和 5 年 6 月）及び第 4 回作業部会（令和 6 年 2 月）において、白雲岳避難小屋付帯トイレ及び忠別岳避難小屋トイレの再整備配置（案）について議論
- ・また、第 3 回及び第 4 回作業部会の開催に先立ち関係者（北海道大学大学院愛甲教授、合同会社北海道山岳整備、山のトイレを考える会、山岳レクリエーション管理研究会）による打合せ・意見交換を実施
- ・第 4 回作業部会では（同）北海道山岳整備より、白雲岳避難小屋付帯トイレの再整備手法及び維持管理、TSS 処理方式への考察について提案いただく
- ・第 5 回部会（令和 6 年 7 月：書面開催）において北海道地方環境事務所として、TSS 方式での設計検討は取り止めとし、部会での議論の帰結に即した整備の計画を都度検討していく旨提示

3. 今後の検討課題

- ・汲取り式での改修実施設計に当たり、① 定期的な汚泥運搬手段の確保、② ①も踏まえた維持管理体制の確保、の 2 点が主要課題と認識。
これらについての、当部会や上川地区登山道等維持管理連絡協議会内での議論や検討を踏まえつつ、再整備の計画を検討、確定していきたい。

白雲岳避難小屋トイレ改修案

合同会社 北海道山岳整備

今回の案は、2024年に発表した白雲岳避難小屋トイレの改修案のイメージ案を具体化したものとなる。2024年のイメージ案では、具体化における根拠が少なく、建築士による「実行の可能性」の検証が必要であった。

そのため石井大吾デザイン室一級建築士事務所（東京）を運営する石井大吾氏に依頼し、白雲岳避難小屋及び忠別岳避難小屋を実際に見てもらい、トイレ改修についての意見を伺った。

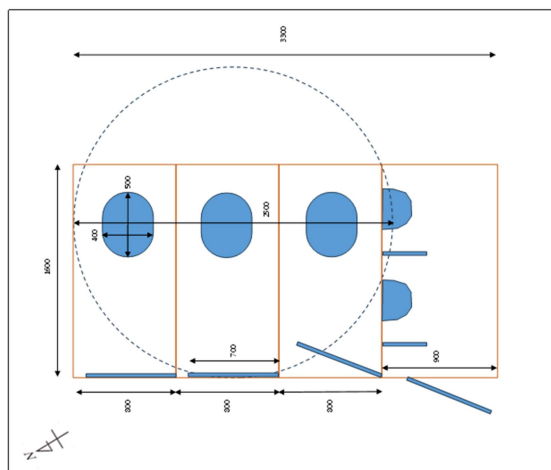
なお、現場視察にあたっては石井大吾氏の他に、大工としての視点から個人事業主の坂井武志氏、山小屋運営の視点から北アルプス雲ノ平山荘の伊藤二郎氏にも参加してもらい、総合的な判断とした。

依頼にかかる経費（移動、滞在、視察費用、その他）は北海道山岳整備が負担し、白雲岳避難小屋での協力金等の公益的な支出の利用はない。白雲小屋利用時も協力金を支払っていただくなど、公共施設利用時の便宜も無いように配慮した。

実施日：現場視察8月16日～8月23日、その後数回のWEB打ち合わせと資料のやり取り

＜論点＞

- ① 2024年のイメージ図のような設計は可能か
- ② 可能であれば、課題点や困難箇所はあるか
- ③ 周辺状況を鑑みて、別設計の可能性はあるか



① 2024年のイメージ図のような設計は可能か

可能と思われる。

現状のコルゲート管を利用して施工する場合、現行トイレの周囲の拡大範囲に基礎部分を作る必要があるが、TSS案と比較しても植生損傷は大幅に減少しトイレの規模は改善することができる。

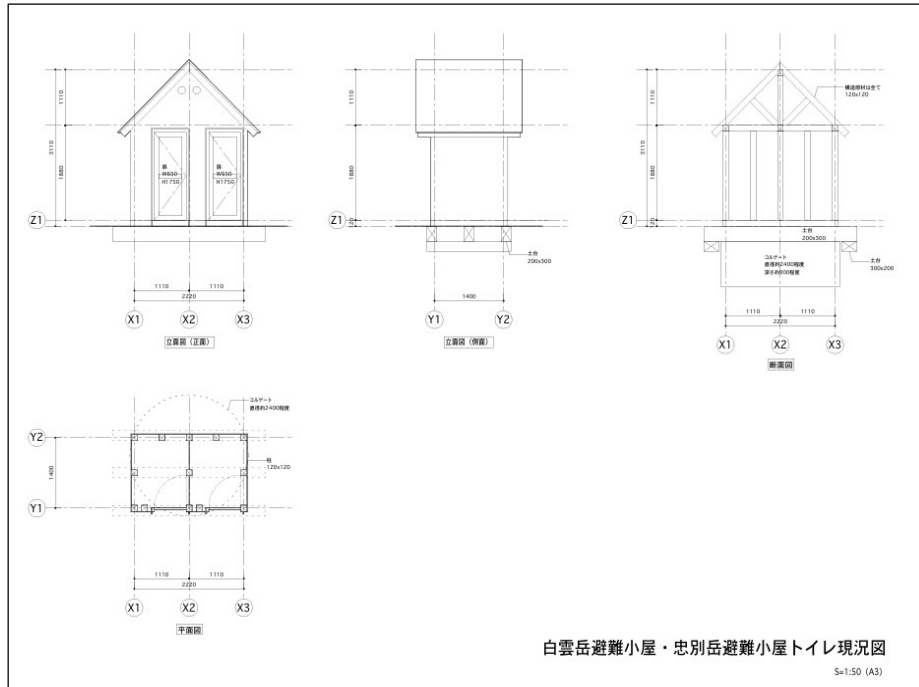
② 可能であれば、課題点や困難箇所はあるか

- ・コルゲート管は使用に耐えているかの検証が必要（一度し尿を抜いて検証するべき）
- ・現行トイレよりも幅が拡大するため、基礎部作成が必要（現行トイレ同様に基礎に定着させない場合は石組みなどで盤面拡大等を行う）
- ・強風対策としてのアンカー設置が必要（建物の規模と風力予測による強度計算が必要だが、現行のアンカー及びワイヤー固定はほぼ効いていないが倒れていないため、アンカーの種類と固定方法の変更で対応できる可能性がある）。

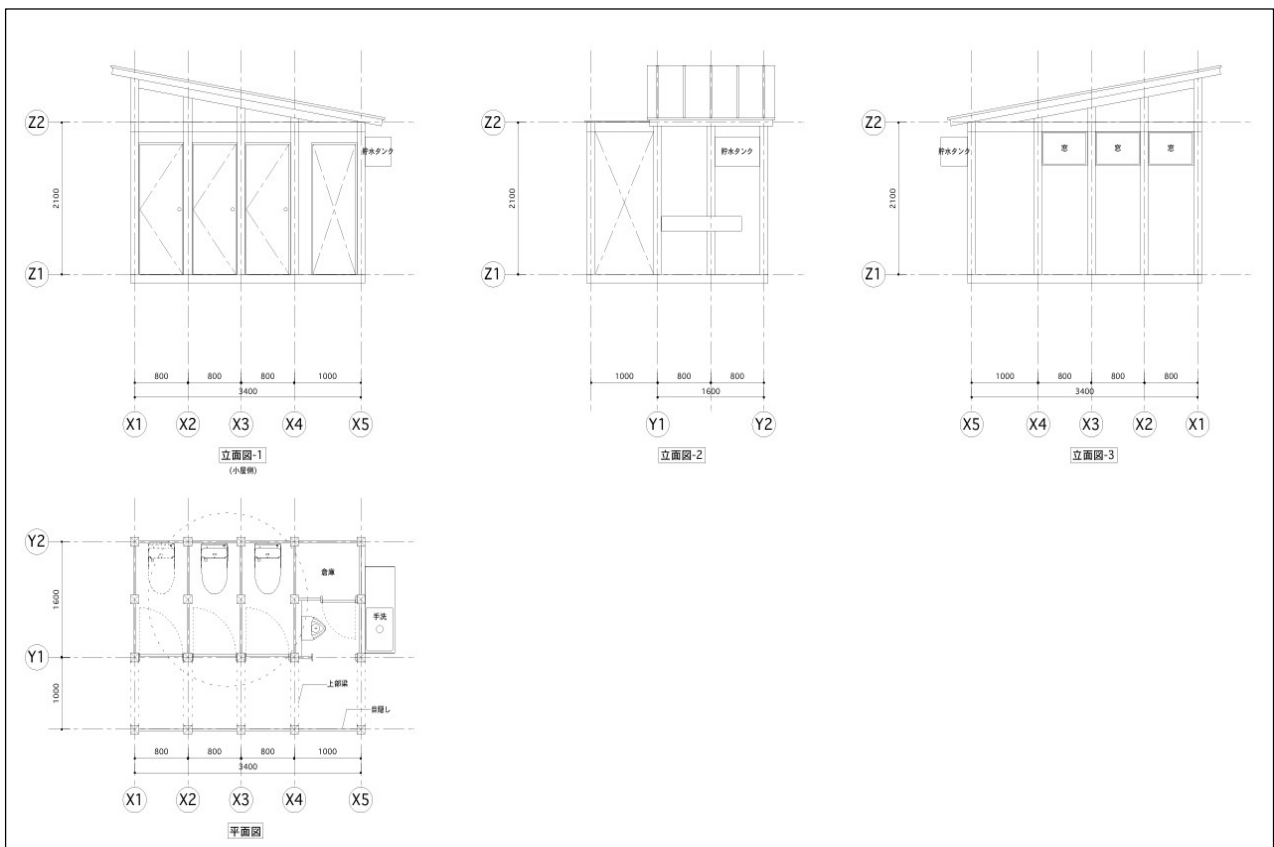
③ 周辺状況を鑑みて、別設計の可能性はあるか

- ・状況を鑑み、次の設計案を提案する（ラフ図面作成：石井大吾）

現況図

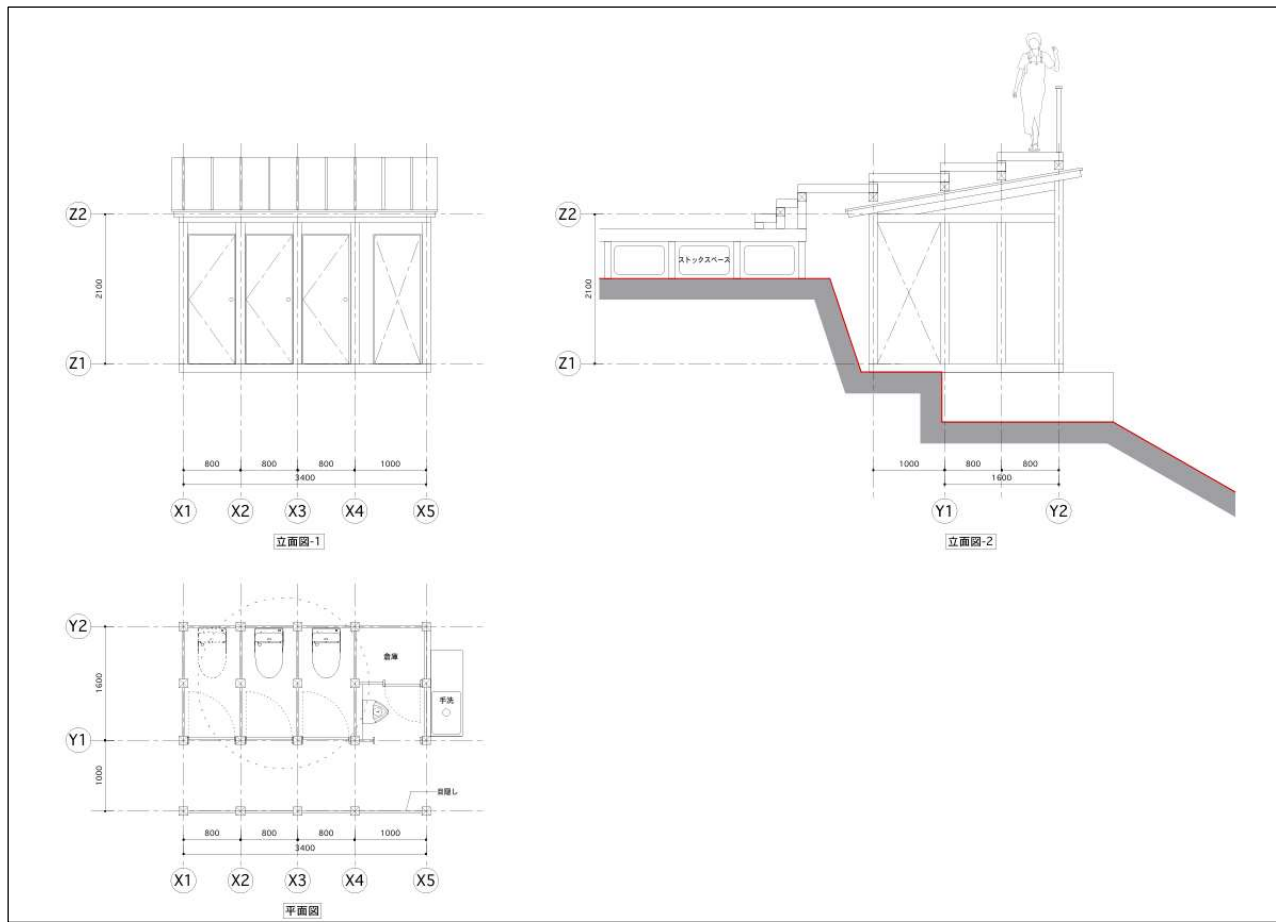


案1 既存トイレに近い設計



- ・前室的な空間を設けて、テラス側から目隠しが設置できるようなプラン。
- ・屋根は風の抵抗と水集めを考慮するとしたら片流れ。
- ・手洗いのリクエストを現場から多く聞きましたので、勾配の下側にタンクと洗面器を想定(白雲小屋管理人からの声や現場視察時に登山者にアンケート)。

案2 トイレ屋根部分をテラスにする



- ・屋根の上まで高さを持っていくには何段か必要になりそう。
- ・一旦、板金でトイレの屋根を葺いておいて、後から少しずつ設置していく、という想定。
- ・テラスを広く使える空間になることは滞在環境を劇的に向上させる可能性あり。
- ・トイレの出入りを常々見られる環境の改善にもつながる。
- ・トイレの周囲の植生は少なく、日光が遮る影響も少ない。周辺はほとんどが二次植生である。



し尿運搬について(ヘリコプター案からドローン案への変更)

2024年の案では2023年までの資料を基に作成したため、し尿運搬は基本的にヘリコプターで行う予定であった。しかし、2024年には山岳地でのドローンによる重量物運搬が施行されつつあり、15～25kgまでの運搬が可能になってる。また、メーカーによっては農業用ドローンとして50kgの農薬を散布できる機体も生産されるようになり、発展が期待できる。現状では30kg程度が実用範囲だが、白雲トイレのし尿は多くても3トン程度のため、100往復が可能な実施計画を策定中である。

- ・2025年夏山シーズンに実証実験を予定。
- ・現場は高原温泉駐車場から白雲岳避難小屋野営指定地の往復。
- ・25kg程度の重量物を運搬した時の状況を確認予定。
- ・運搬を行うにあたっての許認可や資格などの確認。
- ・行政や関係者との情報共有。
- ・必要経費の割り出しとトイレ維持管理費の設定。

今回のトイレ設計案に関してはあくまでも建築士が考えたラフ案であり決定事項ではない。北海道山岳整備としては案2が非常に期待できるものだが、設計段階で変更や微調整は必要である。白雲岳避難小屋トイレ及び忠別岳避難小屋トイレに関しては、し尿の運搬方法が確定した後の改修だと考える。また改修に伴い小屋料金の見直しを行い、継続的に維持管理し続けられる資金調達案も考える必要がある。

令和6年度大雪山国立公園旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務 結果概要

東川管理官事務所

1. 今年度携帯トイレブース設置箇所



2. 各所での効果検証

(1) 裏旭野営指定地

1) 利用状況調査＜報告書p3～11＞

- 自動カメラの設置：R6. 7. 19～9. 29 の（73 日間）
- 滞在調査：2泊3日×9回
- テント数：168 張
- 利用者数：228 人

2) し尿痕調査（報告書 p12, 13）＜報告書 p12～14＞

- 調査期間：R6. 6. 19～9. 30 の間 12 回
- 調査場所：①裏旭野営指定地周辺 ②裏旭野営指定地～間宮岳分岐の登山道沿い
- し尿痕確認数：合計 21 個

3) 携帯トイレブースの設置＜報告書 p15～23＞

- 設置期間：R6. 6. 28～9. 30（95 日間）
- 利用回数：580 回（6. 1 回/日）

4) ヒアリング調査＜報告書 p24～26、資料編 p24～26＞

- 目的
- ①携帯トイレブースの有効性及びトイレ問題改善の方向性検討のため以下について調査
 - ・携帯トイレブースの利用状況
 - ・携帯トイレブース設置箇所の適正度

- ・携帯トイレブースの適正な維持管理方法
- ・携帯トイレブースの問題点、要改善点
- ・登山者の行動の傾向
- ・携帯トイレ、トイレブース、トイレ問題に対する登山者の意識

②裏旭野営指定地の利用状況把握のため以下について調査

- ・裏旭野営指定地の利用状況
- ・宿泊利用者の登山コース
- ・宿泊利用した理由
- ・宿泊利用者の携帯トイレブース利用状況

■実施場所：裏旭野営指定地、裾合分岐、ロープウェイ姿見駅

■実施日：裏旭野営指定地（19 日間）裾合分岐（6 日間）ロープウェイ姿見駅（6 日間）

■対象者：登山者（行先：裾合平または旭岳山頂以上）

※裏旭野営指定地では通過登山者・宿泊登山者ともに対象とした。

■回答数：218（裏旭野営指定地：155、裾合分岐：31、ロープウェイ姿見駅 32）

【結果】＜報告書 p58＞

ある程度利用の多い野営指定地であるため、適正な利用のためには携帯トイレブースが必要である。日帰り登山者も非常に多く、利用する登山コースにより最適な設置場所は異なるため、野営指定地でまとめて利用してもらうことが景観や管理の面でも望ましい。

また、継続的な設置と情報の周知により環境の悪化を防止することができる。

以上の理由から裏旭野営指定地には携帯トイレブースの設置が必要であると考ええる。

（2）裾合分岐

1）携帯トイレブースの設置＜報告書 p26～37＞

■設置期間：R6. 7. 3～10. 1（91 日間）

■利用回数：107 回（1. 2 回/日） ※主にチングルマ期と紅葉期に利用が集中した

■設置場所：裾合分岐の休憩スペース付近

■構造：組み立て式・半テント型の衝立式

2）裾合分岐周辺の踏み分け道＜報告書 p38～42＞

トイレが目的とみられる踏み分け道 2 箇所を確認

①裾合分岐休憩スペース奥

②当麻乗越方面沢沿い



3) ヒアリング調査＜報告書 p42～43、資料編 p12～15 (Q7, Q8)、p16～17 (Q11)＞
実施場所、実施日、対象者は裏旭野営指定地と同様。

■目的

一般登山者、ガイドツアー参加者、ガイドを対象に目隠し用衝立及び携帯トイレの利用に関して以下を調査

○利用に関して

- ・目隠し用衝立の利用の有無
- ・携帯トイレブースの利用の有無
- ・携帯トイレの利用の有無

○利用のハードルに関して

- ・目隠し用衝立の利用のしやすさ（大きさ、構造、設置位置 等、物理面）
- ・携帯トイレの利用のしやすさ（心理面）

○利用者の情報

- ・登山コース、性別、パーティ人数、ガイドの有無 等

【目隠し用衝立の有効性と設置場所について】＜報告書 p45＞

■設置場所について

- ・裾合分岐では登山道外の場所に設置するためには道有林から土地を借り受ける必要がある。また、植生への影響や設置の効果も考慮すると、裾合分岐には登山道内外ともに適地がない。
- ・令和5年度までの中岳温泉携帯トイレブースの利用量も多く、携帯トイレブースの設置場所としては裾合分岐より中岳温泉が適している。

■組立式について

- ・組立て（構造）の簡素化と設置する場所（山域や地形）により有効な可能性がある。

■衝立型について

- ・今回は衝立で検証したが、組立式であっても開口部のないものであれば心的抵抗は小さくなる。

■周知と普及について

- ・衝立に限らず携帯トイレブース等何らかの設備を設置する際は情報が利用者に届くことが必要であり、安定して同じ箇所に設置が継続されることが望ましい。

【結果】＜報告書 p59＞

裾合分岐周辺には携帯トイレブースの設置に適した場所がない。構造については特に組立式であることについて利用のハードルが大きい。設置場所の条件により適した構造が異なるため汎用性のある検証はできなかったが、組立の簡素化ができる場所においては、周知・普及により効果を上げられる可能性がある。

(3) 旭岳 9 合目のニセ金庫岩

1) し尿跡調査〈報告書 p46～48〉

■実施期間：R6. 6. 19～9. 30

■頻度：1 週間に 1 回程度

■調査場所：旭岳登山道 5 合目～山頂及び旭岳 9 合目ニセ金庫岩

■確認したティッシュ数：14 個

2) 植生・土壌調査〈報告書 p48～56〉

本業務中に大きく進行した侵食や植生の後退及び回復等はなかった。周辺は既に踏み分け道ができており、頻繁に人が歩く箇所は植生が後退した後と言える。植生のない地面が踏みならされることが、斜面で一部植生が島状に分裂している箇所、不自然な藻類の繁茂（原因不明）も確認され、今後の植生の状態や侵食に注意が必要である。

【結果】〈報告書 p48、59〉

- ・携帯トイレ設置の有無によるし尿痕数の劇的な変化は見られなかったが、旭岳 9 合目のニセ金庫岩では、ティッシュなど目視で確認できるし尿痕について、令和 5 年度の携帯トイレブース設置後と比較し、設置しなかった令和 6 年度は増加した。
- ・令和 6 年度のし尿痕は特に 9 月後半に集中しており、9 合目における携帯トイレブースの設置は特に登山者数の多い紅葉シーズンにおいて有効であったと考えられる。
- ・し尿痕が多い時期もあるため、定期的・継続的な調査と回収が必要である。
- ・旭岳山頂往復コースに携帯トイレブースが必要であると言う登山者の声も多い。
- ・旭岳山頂往復予定の登山者が携帯トイレブース使用のために裏旭野営指定地まで登山した事例もあり、携帯トイレブースがない場所でどのようにトイレをするか、明確なルールなどを示す必要がある。

黒岳トイレの処理方式の改善に向けて

山岳トイレ等検討作業部会資料2025.2.17

1 便槽の加温の検討(R6換気ファンの例)



太陽光パネル×2枚



チャージコントローラー
インバーター(100V1000W)
バッテリー(12V100AH)



換気ファン2基の交換

2 処理水質改善の検討

○ モンライトの設置状況



○ 今後のモンライトの改善の検討

1 R6 雨水の確保



2 R7に向けた検討項目

- ・ 充填ろ過資材の交換
- ・ 排出口付近の毛管浄化工事

忠別岳避難小屋 R6利用状況調査結果

調査者 北海道上川総合振興局
調査期間 2024.7.3～2024.9.21

日		小屋利用者数	テント場		備 考
			張り数	人数	
2024.7.3	水	5	3	3	※ 小屋利用者5名のうち3名は振興局・環境省
2024.7.4	木	4			
2024.7.5	金	6			
2024.7.6	土	4			
2024.7.7	日	2			
2024.7.8	月	5			
2024.7.9	火	5			
2024.7.10	水	2	1	1	
2024.7.11	木	5			
2024.7.12	金	2	1	1	
2024.7.13	土	30	18		※小屋利用者のノート記載は25～30人
2024.7.14	日	6			
2024.7.15	月	10			
2024.7.16	火	4			
2024.7.17	水	4	2		
2024.7.18	木	18			雨のため利用者停滞
2024.7.19	金	18			
2024.7.20	土	2			
2024.7.21	日	15	1		
2024.7.24	水	1			
2024.7.25	木	4			
2024.7.26	金	5	3		
2024.7.28	日	3			
2024.7.30	火	3			
2024.8.1	木	2			
2024.8.3	土	12			
2024.8.4	日	3			
2024.8.5	月	1			
2024.8.6	火	3			
2024.8.7	水	8			
2024.8.8	木	2			
2024.8.9	金	2			

2024.8.10	土	5	4		
2024.8.11	日	2			
2024.8.12	月	1	2	5	
2024.8.13	火	2			
2024.8.14	水	3			
2024.8.15	木	2	2	2	
2024.8.16	金	1			
2024.8.17	土	2			
2024.8.18	日	2			
2024.8.21	水	1			
2024.8.22	木	13			雨のため利用者停滞
2024.8.23	金	13			
2024.8.24	土	3			
2024.8.25	日	2			
2024.8.29	木	1			
2024.9.2	月	8			
2024.9.3	火	3			
2024.9.4	水	1			
2024.9.5	木	5			
2024.9.6	金	3	5		
2024.9.7	土	1	1		
2024.9.8	日	1			
2024.9.9	月	1			
2024.9.10	火	3			
2024.9.13	金	3			
2024.9.14	土	2			
2024.9.15	日	3			
2024.9.16	月	1			
2024.9.17	火	2			
2024.9.18	水	1			
2024.9.21	土	0			回収時間 12:00
合計		287	43	-	

※1 ノートへの記載なくトレイルカメラでも確認できない日は利用者なしと整理した。

※2 テント場利用者については小屋と離れているためノートへの記載分以外は把握していない。

トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト 令和 6 年度の取組みについて

番匠 絵美（北海道十勝総合振興局保健環境部環境生活課自然環境係）
永田 拳吾（環境省大雪山国立公園管理事務所上士幌管理官事務所）

トムラウシ南沼野営指定地（以下、「南沼野営指定地」）は、大雪山国立公園特別保護地区内に位置し、多くの高山植物が一面に咲き乱れる美しい景観が広がる一方で、長年にわたって深刻なトイレ問題を抱え、登山者から「日本一汚い幕営地」と揶揄されてしまうほどの状況であった。

本問題について、「トムラウシ南沼汚名返上プロジェクト」（以下、「南沼プロジェクト」）と称する取組みが、平成 29 年 4 月に開始された。以来、南沼プロジェクトでは、関係行政機関や山岳関係団体等が協働し、南沼野営指定地の環境改善や携帯トイレ普及などの各種取組を推進している。本稿では、令和 6 年度における南沼プロジェクトの主な取組みについて紹介する。

南沼プロジェクトの立ち上げや、過年度の取組み状況については、第 24 回及び第 25 回などこれまでのフォーラム寄稿を参照いただきたい。

【1. 携帯トイレ配布ボックスの継続設置】（北海道 十勝総合振興局）

令和 6 年度も、過去 3 年に引き続き、トムラウシ短縮登山口（以下、「短縮登山口」）に無人の携帯トイレ配布ボックスを設置し、携帯トイレ持参を忘れた方や、南沼野営指定地にトイレがないことを知らなかった方でも、協力金（携帯トイレ 1 個当たり 500 円）を支払うことで、携帯トイレを入手できる取組みを実施した。

協力金は、南沼プロジェクト事務局である十勝総合振興局環境生活課で回収しており、携帯トイレ補充の原資としている。

令和 3 年、4 年の取組では、1 個当たりの協力金は 396～398 円と、携帯トイレ補充で手一杯の金額であり、目標とする 500 円には及ばない状況であった。

しかし、令和 5 年度については過去 2 年を大きく更新し、1 個あたり 511 円を記録した。さらに、令和 6 年度は 1 個あたり 586 円を記録し、過去最高となった。

協力金の額が大きく増加した要因としては、新型コロナウイルスの 5 類引き下げによる登山者の増加、登山者の山に対する意識向上などが考えられるが、いずれにしても継続的に協力金を頂戴できるようさらなる普及啓発が必要である。

今後、協力金の額がさらに増えてくれば、携帯トイレ補充以外にも、登山道の補修や維持管理にも活用したいところである。

令和 6 年度の配布実績については次頁のとおり。

トムラウシ短縮登山口 携帯トイレ配布ボックス 協力金回収実績（確定値）

設置期間：令和 6 年 6 月 1 4 日（金）～令和 6 月 1 0 月 1 日（火）

総配布数（個）	回収金額（円）	協力金／個（円）
1 5 3 個	8 9, 6 6 3 円	5 8 6 円

（参考：令和 5 年度 配布数 195 個、協力金／個 約 511 円）

参考 携帯トイレ回収数（単位：個）

	6 月	7 月	8 月	9 月	合計
短縮登山口	12	457	270	230	969
温泉登山口	11	133	100	29	273
計					1, 242 個

（参考：令和 5 年度 回収数 1, 602 個）

【2. 野外し尿痕跡調査】（環境省 上士幌管理官事務所）

南沼プロジェクトでは、平成 28 年度以降、南沼野営指定地におけるトイレ問題の改善状況を把握するため、野外に放置されたティッシュ・大便（以下、「痕跡」）を回収し、それらの数と位置を記録する調査を継続実施している。

また、令和 5 年度からは植生への踏み込みを極力避ける観点から、ドローンを活用した遠隔調査を導入した（令和 6 年度は強風のため踏査調査とした）。

令和 6 年度調査総括

- 初回調査（7/3）では、十勝岳連峰方面への縦走線から南に分岐するトイレ道、旧携帯トイレブース横トイレ道から直近の大岩、野営指定地中心にある大岩の周囲、野営指定地のロープ際を探索したが、痕跡は確認されなかった。
- 2 回目調査（9/19）では、ティッシュが 4 箇所、大便が 1 箇所で見つかった。
- また、痕跡はないものの、排尿の集中による植生の変色が旧携帯トイレブースの裏と野営指定地周辺の岩陰の 2 箇所で見られた。
- 7 月から 9 月にかけて本野営指定地で撮影されたテント数は合計 439 となり、昨年からは微増、ほぼコロナ前に戻ったが、痕跡の数は継続して低いままであった。

● 令和 6 年度の回収実績

日付	時間帯	回収数	備考
7 月 3 日	08:30	0	
9 月 19 日	08:30	5	
計		5	

● 過去の回収実績

年度	日付・回収数							計	最大値
H28		7/2(土)	7/26(火)				10/1(土)	49 以上	30
		不明 全数回収	30				19		
H29	6/28(水)	7/15(土)	7/26(水)	7/30(日)		8/14(月)	9/16(土)	43	17
	6	2	6	5		17	7		
H30	6/25(月)	7/24(火)	7/25(水)	7/28(土)	8/6(月)	8/12(日)	9/16(日)	38	13
	1	13	2	1	5	6	10		
R01		7/4(木)	7/23(火)			8/12(月)	9/14(土)	13	7
		0	0			6	7		
R02			7/16(木)				9/16(水)	14	9
			5				9		
R03		7/1(木)	7/28(水)		8/9(月)	9/2(木)		16	6
		6	4		3	3			
R04	6/28(火)						9/26(月)	4	2
	2						2		
R05		7/5(水)					9/21(木)	5	4
		4					1		
R06		7/3(水)					9/19(木)	5	5
		0					5		

※平成 30 年度までは山のトイレを考える会等の協力を得ながら実施。令和元年度以降は環境省単独で実施。

< 考察 >

南沼野営指定地への携帯トイレブース設置以降、痕跡数は年々減少し続け、ここ 3 年は毎年 5 個以下となっている。痕跡が確認される位置についても、近年はテント場付近に限定されており、植生の踏み荒らしも減少している。また、南沼に至る中継点にあるカムイサンケナイ川沿いに設置した仮設トイレブースについても、令和 5 年度のカウント数が 101 であったのに対し、令和 6 年度のカウント数は 162 となっており、トムラウシ山線の利用者が令和 5、6 年共に約 3500 人と登山者数が変わらない中で利用者数が増加しており、携帯トイレの普及が進んでいることが伺える。今後も痕跡状況を調査すると共に、ドローンの活用等により過去のトイレ道の植生復元状況のモニタリングを継続していきたい。

- 2024年 美瑛富士・携帯トイレへの取り組み10年目の活動報告 -

美瑛富士トイレ管理連絡会事務局

山のトイレを考える会 磯部吉克@山歩人

1. 携帯トイレブース設置から10年目へ（固定式6年目）

美瑛富士避難小屋はトイレがないため、小屋周辺にはティッシュと糞尿が散乱、さらに放射状にトイレ道ができ裸地拡大が進んでいた。2015年から小屋周辺のトイレ問題の解決策として、携帯トイレ使用の促進を図るため、テント式の携帯トイレブースを設置してきたが、登山者からは固定式のブースを望む声が多かった。2019年8月27日、登山者らの長年の要望がかない、環境省により固定式の携帯トイレブースが設置され供用開始された。



トイレ道だった場所に高山植物が咲くまでになった…

固定ブースの設置に先立ち、2019年4月25日に北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の三者で「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」を締結。これにより、環境省は固定ブースの改築及び改修・大規模な修繕、美瑛町は軽微な修繕と冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会はブースの点検及び清掃・周辺の清掃を担うことを定めた。

固定ブースの設置に先立ち、2019年4月25日に北海道地方環境事務所、美瑛町、美瑛富士トイレ管理連絡会の三者で「美瑛富士携帯トイレブースの維持管理に関する協定書」を締結。これにより、環境省は固定ブースの改築及び改修・大規模な修繕、美瑛町は軽微な修繕と冬囲い・回収ボックスの管理、そして美瑛富士トイレ管理連絡会はブースの点検及び清掃・周辺の清掃を担うことを定めた。

そして10年目となる2024年のシーズン、「快適に用が足せる清潔なブース」「トイレ街道と呼ばせない!ティッシュ及び汚物のない野営指定地」「ゴミのないきれいな小屋」となるよう点検パトロールを継続実施した。毎年現地を訪れて気づいたが、過去にトイレ道だった箇所の植生は復活してきている!嬉しい!



テント式携帯トイレブース
(2015年～2019年)



固定式携帯トイレブース
(2019年9月～)

2. 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

今シーズンも美瑛富士トイレ管理連絡会により、2024年6月23日～9月29日までの3ヵ月あまりの間、固定ブースの冬囲い外しと冬囲いを兼ねた2回と併せて、点検パトロールや維持管理を9回計画した。荒天により1回は中止となったものの8回実施することができた。参加人数は過去最多の80名となった。

■ 2024年 携帯トイレブース点検パトロール等の実施状況

- ① 6月23日（日）… 携帯トイレブースの冬囲い外し（供用開始）：13名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）
- ② 7月07日（日）… 大雪山国立公園パークボランティア連絡会：11名
- ③ 7月21日（日）… 道央地区勤労者山岳連盟：15名
- ④ 7月28日（日）… 札幌山岳連盟：5名
- ⑤ 8月04日（日）… 北海道山岳連盟：10名

※前日、白金野営場に宿泊したが雨のため中止

- ⑥ 8月18日（日）… 日本山岳会北海道支部：2名
- ⑦ 9月08日（日）… 道北地区勤労者山岳連盟：8名
- ⑧ 9月24日（火）… 北海道山岳ガイド協会：3名
- ⑨ 9月29日（日）… 携帯トイレブースの冬囲い（供用終了）：13名
（美瑛町・環境省・美瑛山岳会・山のトイレを考える会）

延べ8回実施／80名参加

■ 2024年 点検パトロール等実施報告(主な概要) ※詳細は山のトイレを考える会のHP参照



〔6月23日〕

携帯トイレブースの冬囲い外しを行う。ブースは昨秋の冬囲いのまま完全に残っており、損傷部分は殆どなかった。塗装状態も良好であった。ブース周辺にティッシュが3ヶ所と生理用品と思われるゴミが1ヶ所あった。白金温泉回収ボックスの鍵番号「530」が分かるように、林道ゲートや入林届箱、ブースや小屋内などに周知掲示した。



〔7月7日〕

主に小屋裏手のテント場にティッシュや汚物が見つかった。石を載せて隠している汚物も見つかり、ブースが設置してあるにもかかわらず、汚物が確認されてしまう状況は遺憾でならない。回収ボックス裏に大量のゴミを発見。



〔7月21日〕

テント場はきれいだった。ブースの山側にテント場があり、人の姿が隠れる茂みが密集している。この茂みの中に汚物やティッシュ、嘔吐物などがありスコップで回収した。この辺の茂みは格好の「姿隠し」になるため、刈払いなどの検討が今後必要である。十勝岳望岳台の回収ボックスは満杯状態！



〔7月28日〕

汚物は3個回収。登山道脇に石で隠してある汚物や小屋下のテント場付近にある草地で汚物が草の葉で隠してあった。宿泊者の全員が携帯トイレを持参していた。埋まっていた古いゴミも回収した。



〔8月4日〕

前日、白金野営場に宿泊したが悪天候のため中止とした。引き続き北海道の自然を守るためにティッシュの持ち帰りや携帯トイレの使用、ゴミ拾いなどの協力をお願いしたい。



〔8月18日〕

ブース内の棚の上に携帯トイレの外包と切れ端が残されていたほか、タオルやティッシュのようなものが入った袋と何かの梱包材と思われる紙があった。床の網状鉄板の下にも開封した袋の切れ端など細かいゴミが落ちていた。全てゴミとして回収した。ブース周辺には目立ったゴミはなかった。





〔9月8日〕

トイレブース内外には、殆どゴミや汚れはなかったが、内部に歯ブラシやポケットティッシュ、凝固剤の袋が残されてあった。天候が悪く集合写真は失敗した。



〔9月24日〕

汚物は買い物ビニール袋に入っていて小動物に食いちぎられていた。汚物とティッシュの回収場所はブース裏のテント適地。小屋内に残置してあったペットボトルや傘、バンダナ、バイザーなどのゴミを回収した。



〔9月29日〕

今年も多くの協力者により手際よく冬囲いを終えることができた。ブースの周辺には、ティッシュゴミが2個、携帯灰皿1個、ペットボトル1個あり回収した。年々降雪量が少なく雪融けが早いことからブースの冬囲い外しは、十勝岳の山開きの前に取り組む必要があるかなどの意見もあり6月の早い時期に供用開始する必要があるかなどの検討が必要。



3. 携帯トイレブースの利用数365回

2022年から携帯トイレブースの利用数（カウンター値）を調査してきたが、2024年、はじめてほぼ正確な値（利用数365回※1）を得ることができた。



携帯トイレブース内のカウンター

2021年までは、カウンターのリセット部分を操作された形跡（悪戯等）があり、2022年には、リセット操作防止のためにカバーを設置したものの、最終的にはカバーも破損、2023年には金属製カバーに変更した。しかしながら、使用者の故意か過失かは不明だがカウンターの異常値が多く、残念ながら信頼に足る数値は得られなかった。今後も、正確な数値が得られるよう創意工夫し利用数の統計を取っていききたい。結果としては、前年の推計利用数と比較して、微増傾向※2ではあるが、ブース利用者は確実に増えている。



■ 2024年の携帯トイレブースカウンター値※1

月/日	6/23	7/7	7/21	7/28	8/18	9/8	9/24	9/29
数 値	4	43	136	181	249	283	352	365

■ 2015年～2024年（10年間）の年度別携帯トイレブースの利用数※2

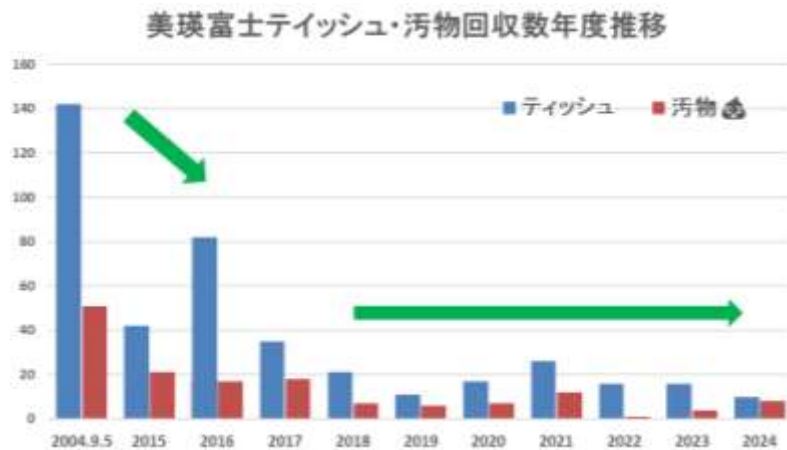
年	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
利用数	*88 以上	179	180	196	218	203	201	*142 以上	*277 以上	365

*2015年、2022年、2023年は誤作動等による推定数値

4. ティッシュ、汚物等の回収状況

2015年から避難小屋周辺の点検パトロールを継続実施して10年目を終えた。2024年における小屋周辺のティッシュや汚物等の回収は、ティッシュ類10個、汚物類8個、ゴミ類8個であった。記録にある2004年からは激減しているが、2018年からは、ほぼ横ばい傾向にある（下記図参照：年度別推移）。マナーを守れない登山者は一定割合いるが、その割合を減少させ、限りなくゼロにするため、そして携帯トイレの認識率や所持率を100%に近づけるために、引き続き点検パトロール並びに各種啓発活動を担っていききたい。

また、登山者が安心して携帯トイレを使用できる環境整備や美瑛富士避難小屋を利用する場合は携帯トイレを必ず所持するといったより一層のSNSの広報など、今後も地道な活動の継続が必要である。



5. 携帯トイレのさらなる認知度及び普及率の向上に向けて

携帯トイレの普及活動等において、引き続き身近からできる取り組みとしては、情報発信に力を入れる必要がある。ネットの交流サイト（SNS）であるフェイスブック（Facebook）やインスタグラム（Instagram）、X（旧ツイッター）、ヤマレコ、YAMAPなどを活用し、道内外の登山者へ携帯トイレの携行を奨励し、トイレブース等の利用や使用後は回収ボックスへの利用も促していききたい。

また、当会としても、引き続きSNSの活用だけではなく、直接的な登山者への携帯トイレ持参への呼び掛けや学校教育、青少年教育なども活用し、「携帯トイレの山」の実現に向け一層努力をしていきたい。

「携帯トイレを使うには、最初は抵抗があるが、1回使うと慣れます！美しい山の環境を守るためぜひ積極的に使用してくださいね！」

※当会仲俣事務局長から携帯トイレについて説明を受ける東川町と美瑛町の愛護少年団員（8/6 大雪山十勝岳愛護少年団交歓会 東川町・旭岳ビジターセンター主催）



6. 次年度（2025年度）の課題解決等に向けて

（1）確立された冬囲い方法と冬囲い外しの時期について

美瑛富士避難小屋に固定式の携帯トイレブースができて6年が経った。ブースは約7か月間、雪に埋もれる…ブースを長持ちさせるため、毎年10月上旬に冬囲いをしているが、山に吹く風はそう甘くはない…完璧と思える冬囲いも、翌春には無残な状態で私たちを迎えてくれたこともあった（涙）。

せっかく設置された固定式携帯トイレブースを、今後数年でも長く快適に使用し続けるためには、厳しい気候や環境に耐えられる保護体制が不可欠である。これまで何度か失敗を重ねたが、より安価な汎用部材で、誰が実施しても一定レベルの作業が実施できるよう環境省による一定のマニュアルを完成(2022年の冬囲いから)させた。このマニュアルを参考に、現在はベテランの会員や地元役場の若い方も協力してくれて作業は捗っている。今後も厳しい自然環境に耐えられるよう安定したブースの保護は必要となる。



また、地球温暖化等の影響により、年々降雪量は少なく雪融けが早いことからブースの冬囲い外しは、もう少し早い時期に供用開始する方がよいなどの意見もあることから各関係機関と実施に向けた検討をしていきたい。なお、トイレブース閉鎖後も引き続き携帯トイレを使用し、ゴミの持ち帰りにご協力いただきたい。

わかりやすく見やすいマニュアル

（2）携帯トイレ回収ボックスについて

「回収ボックスは、ゴミ箱ではありません！」
白金温泉公衆トイレ横の回収ボックスは、観光客によるゴミ不法投棄防止のため、今年からダイヤルキーで施錠することになった。

鍵番号は「**530（ゴミゼロ）**」。今回、鍵番号の周知が課題で、トイレマップのほか登山口ゲートや入林届箱、避難小屋内、ブース内などに掲示した。今後は外国語表記が必要でありデザインも含め検討していきたい。また、鍵番号を合わせるラインがわかりづらいとの声もあり外国語表記と併せて検討していきたい。



観光客がトイレに列をなす…
オーバーツーリズム対策も課題

近年、嬉しいことに携帯トイレブース及び下山後に回収ボックスを利用する登山者が一般化してきている。引き続き下山後は携帯トイレ回収ボックスへ！皆様のご協力をよろしくお願いします！



(3) 携帯トイレを使用して「人間は変わる!？」

小生、微力ながら当会の運営委員となって5年目（会員は9年目）。

当会に入るまで、山行での排泄物はトイレ以外では残置してきた（数回ね…）。山の神様に「ごめんなさい～」と謝罪の日々。神の聖域…いつか罰があたるかも…。

「罪滅ぼし」ではないが、当会の会員となり、現在は、運営委員としてお手伝い…毎月のミーティング等により携帯トイレの携行や利用、バイオトイレの仕組みなどを熱く語る当会の事務局長に感化され、数年前から、ブース利用だけではなく、テントの中、誰もいない山頂で…ブリブリ「けっこう快感…💩笑」携帯トイレを積極的に利用してきた。



「習うより慣れろ」…最近の携帯トイレは凄い！防臭力・使いやすさ・凝固速度・受け口の大きさなど超便利！快適！…いつの間にか必要に応じて携帯トイレを持参し使用している。



満杯になった十勝岳望岳台の回収ボックス

使用後はザックにぶら下げて「重～い（泣）」…下山後は携帯トイレ回収ボックスへ。回収ボックスが満杯になるところもある（嬉しい悲鳴…）。

大雪山では、登山者の排せつ物による環境悪化を防ごうと、官民が連携して



携帯トイレ持参と利用を呼びかけている。山のトイレを考える会のHPには、回収ボックス情報や、携帯トイレの取扱店などが掲載されている。ぜひ興味のある方は見てほしい！

最後に、2024年携帯トイレブースの設置（テント式・固定式）から10年目を迎えた。これもひとえに各関係機関の方々のご支援とご協力があったからこそこの活動である。これからも変わらぬご支援とご協力をお願いしたい。

「携帯トイレを使おう！」「北海道の美しい自然をいつまでも！」

（以上）

【美瑛富士トイレ管理連絡会の構成団体】

北海道山岳連盟・札幌山岳連盟・北海道勤労者山岳連盟・北海道道央地区勤労者山岳連盟・北海道道北地区勤労者山岳連盟・日本山岳会北海道支部・北海道山岳ガイド協会・大雪山国立公園パークボランティア連絡会・山のトイレを考える会

大雪山・沼ノ原大沼野営指定地の2024年トイレ事情 調査報告書

山のトイレを考える会 代表 小枝正人

1. はじめに

大雪山国立公園の沼ノ原大沼野営指定地は、層雲峡本流林道を車で奥深く入り込みクチャンベツ登山口から2時間半程の比較的短時間で辿り着ける東大雪地域の山々を巡る基地となるテント場である。この素晴らしいロケーションに位置する野営指定地にはトイレが無い。2022年5月に発足した大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会においても検討の優先順位の高い場所と認識されてきた。また、登山者からは、少なくとも携帯トイレブースを設置して欲しいとの要望が出ている場所でもある。しかし、問題解決の実現には多くの課題を抱えているのが現状である。

2. 沼ノ原大沼野営指定地の特殊事情

沼ノ原大沼野営指定地（以下、沼ノ原野営地と略称する）は、テント場として大雪山系の他のテント場とは異なった特殊事情を抱えている。それは、テント設営適地である大沼湖畔周囲テント砂地が、時期によって雪解け水や大雨豪雨で水没してしまうことである。毎年時期が異なり一定ではないことも登山者にとっては悩ましい。6月下旬頃には雪解け水が乾き始め、7月初旬から中旬には、テント砂地が現れることが多い模様である。なお、2024年では9月に大雨豪雨で一時的に水没してテント設営が出来なくなることも発生している。Web上のヤママップやヤマレコへのユーザーからの投稿情報に注意しておき参考にすることも重要である。

3. 2024年の現地調査の目的と方法等

山のトイレを考える会（以下、当会と略称する）では、沼ノ原野営地への携帯トイレブース設置可否の検討を行うため裏付けデータが必要と考えていた。しかし、今まで公開されたものが見当たらない。2024年度は当会内部で方針を決定する根拠を得るために、当会のみで登山者の野営地利用状況、排泄状況等の現地調査を行うこととした。また、登山者への携帯トイレ使用の意識アンケート調査等も同時に実施する。

・現地調査の計画回数と実際の実施日

現地調査の計画は、7月下旬、8月下旬、9月中旬の計3回を予定していた。

実際の結果は、8月下旬は人員の配置が出来ず、9月14日～16日は前週に大沼が満水とのWeb情報で中止し、2024年7月27日(土)～28日(日)での1回の実施のみとなった。

4. 現地調査(2024 年 7 月 27 日～28 日)の結果

(1) 沼ノ原野営地の目視調査の結果

この僅かな日程の調査で、シーズン中の状況全体を評価することは適切ではないが、気が付いた点を記す。

1) 野営地での汚物等の排泄状況確認

- ① 野営地全体を可能な範囲でくまなく確認したが、汚物や使用済みのティッシュは落ちていなかった。ゴミはウイスキー瓶 1 本を回収したのみであった。
調査日の 2 週間前(7/13)の Web 上に 17 張りのテントが設営された写真がアップされていた。これを考慮、推測すると 7/27 迄の沼ノ原野営地を利用した登山者は、汚物やティッシュを残しておくような利用の仕方をしない登山者だったと言える。
- ② 大沼は前述したようにテント設営可能後でもシーズン中に 1 度や 2 度は満水となりテント場が水没することがある。このことも汚物等が残置状態で目に触れることが無い状況になる可能性があるかと推測される。
- ③ 沼ノ原野営地においては、排泄行為を行う際に身を隠す場所や、適当な灌木や岩陰などが少なく、沼の砂地の淵は濃い笹藪や灌木で覆われているので、適地を捜すのに難渋することもある。ただ、沼の砂地は周辺に広がっているのでテントから遠く離れて対処していることも推測できた。

2) 携帯トイレブースを設置する場合の適地と課題

常設の携帯トイレブースを設置する場合には、位置特性、設置場所の脆弱性等の克服しなければならない課題がある。

- ① 野営地の沼湖畔のテント砂地は、周囲の登山道(木道)より低いレベルにあるため時期によって水没する。このためテント砂地への常設型携帯トイレブースの設置は適当ではない。
- ② 水没しない周囲の登山道(木道)とのアクセス位置は、大沼への南東側入口と北東側入口の 2 箇所がある。テント設営に適地なテント砂地スペースは南東側入口付近に広くある。テント泊者と登山道(木道)通過者の双方が使用するのに都合がよい位置としての適地は、この南東側入口木道付近であるが湿地帯である。
- ③ 仮設のテント型携帯トイレブースを試行的に設置する場合(過去に NPO 法人 K 殿が実施)は、大沼湖畔のテント砂地でよいが、耐風の為にテント固定アンカーは、旭岳の各種検討で得られ公開された杭丸アンカー(径 34×900mm)の使用検討が必要である。また、テント張り綱の耐風強度にも考慮が必要である。
- ④ 仮設テント型携帯トイレブースを設置する際には、大沼湖畔のテント砂地が水没しない連続期間の見極めが重要であり、設置と撤収に迅速性が求められる。

(2) 沼ノ原野営地での登山者アンケート調査の結果

7月27日のテント設営数は7張。内2張は夜半に設営。アンケート回収は5張のテントから10枚回収(全員)した。夜半設営したテント者にはアンケート出来ず。アンケート調査結果を下記に示す。アンケート回収の母数が10人であり、この値で調査の評価を論ずるのは不足であるが可能な範囲で行った。アンケート内容は添付別紙「沼ノ原大沼野営指定地の“携帯トイレ”に関するアンケート」に示す。

(数字の後に記載のない助数詞は「人」、以下全て同)

〔問1〕 山中何泊の登山ですか？

1泊2日	3 (30%)
2泊3日	7 (70%)

〔問2〕 今回の登山コースは？

沼ノ原滞在	3 (30%)
トムラウシ山往復	4 (40%)
忠別岳往復	2 (20%)
石狩岳往復	1 (10%)

〔問2 考察〕；沼ノ原を基地に登山者の多様な利用コースの結果が推察できる。

〔問3〕 携帯トイレ利用周知の認識率

知っていた	10 (100%)
知らなかった	0

〔問4〕 携帯トイレの持参率

持ってきた	10 (100%)
持ってこなかった	0

〔問3,4 考察〕；近年の大雪山登山者と同じ傾向で携帯トイレ普及が推察できる。

〔問5〕 持参した携帯トイレはどうしましたか（しますか）？

使用した	0
これから使用すると思う（翌朝も含む）	9 (90%)
使用していない（しないと思う）	1 (便意を催さないから)

〔問6〕 使用したのは、大便ですか小便ですか？

大便で使用した（これからする）	4 (40%)	男性3、女性1
小便で使用した（これからする）	4 (40%)	男性1、女性3
大便でも小便でも使用した（これからする）	1 (10%)	男性1、女性0
未回答	1 (10%)	男性1

〔問7〕 携帯トイレを使用した(する)場所

テントから遠く離れた先（見えない所）	2 (20%)
テントから離れた植生の影	2 (20%)
テントからある程度離れた場所（小さく見えてもかまわない）	0
テント付近の草地	3 (30%)
テントの中	0
その他	0

未回答

3 (30%)

「問7 考察」；登山者はいろいろ工夫して携帯トイレを使用している。

〔問8〕 沼ノ原野営地のトイレ問題の対策は？ ※1人がその他含め2つ選択

現状のままでよい	1	(10%)
携帯トイレブースを設置する	5	(50%)
環境配慮型トイレを設置する	3	(30%)
その他	2	

- ① 携帯トイレブースを設置するには満水時があり難しいと感じた。
- ② 現状のままでよいとは思わないが、携帯トイレブースの設置は難しいと思うし、正直分らない。

〔問9〕 性別	〔問10〕 年齢	〔問11〕 居住地
男性 6 (60%)	30代 2 (20%)	札幌市 7 (70%)
女性 4 (40%)	40代 2 (20%)	苫小牧市 2 (20%)
	50代 2 (20%)	余市町 1 (10%)
	70代 4 (40%)	

〔意見・感想の自由記述欄 意見紹介・複数記載有り〕

- ① 携帯トイレブースを設置するには、いろいろな課題を克服することが必要だが、何とか設置して欲しい。携帯トイレブースも無い国立公園は恥である。大沼は満水になる時期があり（毎年繰り返す）設置場所の選定が難しい。
- ② ブース設置した後の維持管理体制を利用者で協働できないのではと懸念する。維持管理を自治体（行政）に丸投げでは設置しない方がよい。
- ③ テントブースを設置しても強風で倒壊する恐れがある。また大沼は時々満水になるので水没する可能性がある。何より維持管理が大変。現状のままでよい。
- ④ ブースを設置するのであれば、水没する湖畔ではなく湿原木道沿いにテラスのようなものを設置し、台場とするなどの工夫が必要かもしれない。
- ⑤ 女性としては携帯トイレブースが無いとテント泊の時困る。（テント泊の選択肢から外れる）。携帯トイレを使用することに抵抗はない。可能ならできる限り使用したいと思っている。
- ⑥ いつも思うのはクチャンベツ登山口に携帯トイレ回収ボックスが無いこと。私達グループは持ち帰ればよいが、本州からの登山者はどうしているのだろうか。

5. 現地調査に関連したその他項目について考察

1) 携帯トイレブースを設置した場合の維持管理体制について

携帯トイレブースを設置した後の維持管理は重要な点であり、大きな課題要素の 1 つである。トムラウシ南沼野営指定地やニペソツ山前天狗に設置の携帯トイレブースのように、登山者(利用者)の自主的な維持管理で運用されている事例も存在する。設置の検討と維持管理の検討については、平行して行う課題であろう。

2) 沼ノ原野営地へのクチャンベツ登山口に携帯トイレ回収ボックス設置について

クチャンベツ登山口には駐車スペース(駐車場)が確保されている。また、簡易トイレ(1 棟 2 室)も上川町の所轄で設置されている。ただ、携帯トイレ回収ボックスは設置されていない。一般廃棄物収集業者の収集可能範囲外のため設置は困難との考えが、所轄上川町の現状方針の模様である。

関連情報 7 月 27 日(土) 7:15 時点のクチャンベツ登山口の駐車状況

- ・車 19 台(ほぼ満車状態)内、札幌No.が 15 台、旭川No.が 3 台、苫小牧No.が 1 台。
また、19 台の内、レンタカーNo.が 5 台。

「携帯トイレ回収ボックスについての考察」

(i) 回収ボックス設置が無い現状で、次善の策として考えられる方法

- ① クチャンベツ登山口簡易トイレ入口扉に「回収ボックスが層雲峡ビジターセンターに設置」あることの掲示周知を貼るをお願いをする(来シーズン)。
- ② 登山者は使用済携帯トイレを層雲峡ビジターセンター回収ボックスへ投棄
- ③ 登山者は車で自宅持ち帰り、燃えるゴミとして処分

6. 2024 年現地調査を行った検討まとめ

当会のみで現地調査を行い、わずかなデータ、知見を得た。その結果、当会の今後の方針について次のようにまとめた。

- (1) 必要ならば 2025 年度に、他団体にも呼びかけて沼ノ原野営地での現地調査を行うことを検討していたが、それは実施しない。
- (2) 沼ノ原野営地への携帯トイレブース設置の検討は、大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の場で協議を継続していく。

以上

調査員記入欄	調査日：令和6年 月 日（ ） 時 天候；	
--------	-----------------------	--

沼ノ原大沼野営指定地の“携帯トイレ”に関するアンケート

大雪山・沼ノ原大沼野営指定地での携帯トイレ利用に関して、ご意見を伺うものです。ご回答いただいた内容は、統計的に処理され、回答がそのまま公表されることはございません。ご協力をお願いいたします。 山のトイレを考える会
ご意見連絡先；山のトイレを考える会 事務局 Email；hokkaido@yamatoilet.jp

～ 今回の登山コース等についてお伺いします ～

問 1. 山中何泊の登山ですか？ 下線部に記入してください。 _____泊_____日
前泊があった場合、その泊地： _____， 次泊がある場合、その予定泊地： _____

問 2. 今回の登山コースはどれですか？ 下線部に記入及びあてはまるものに○をしてください。
(登山口：_____ 下山口(予定)：_____)

- 1: 沼ノ原滞在
- 2: トムラウシ山往復
- 3: 表大雪山方面へ縦走(白雲岳－黒岳方面 or 白雲岳－旭岳方面 or その逆)
- 4: トムラウシ山－トムラウシ温泉 or その逆)
- 5: 大雪山・十勝連峰縦走(トムラウシ山－十勝連峰－ or その逆)
- 6: その他(_____)

～大雪山・沼ノ原大沼野営指定地での携帯トイレの利用に関連してお伺いします～

問 3. (1) 大雪山全域では携帯トイレの利用をお願いしていることをご存知でしたか？

- 1: 知っていた 2: 知らなかった

問 4. (1) 今回の登山で、沼ノ原大沼野営指定地に携帯トイレを持ってきましたか？

- 1: はい →問5へ 2: いいえ →(2)を回答の後、問8へ

(2) 携帯トイレを持ってきていない理由について、あてはまるものに○をつけて下さい。

(複数可)

- 1: どんなものか知らない 2: 購入先がわからない 3: 使用するのが面倒だから
4: 処分が面倒だから 5: 汚物をザックに入れるのは嫌だから 6: お金がかかるから
7: 携帯トイレブースが無いことを知っていたから 8: 小便では不要と思ったから
9: 普段は携行しているが今回は忘れた 10: その他(_____)

裏面へ続く

問 5. 沼ノ原には携帯トイレブースが設置されていません。持参した携帯トイレはどうしますか？

(1) 沼ノ原野営指定地で携帯トイレを使用しましたか(これから使用しますか)？

1: 使用した →問6へ 2: これから使用すると思う(翌朝も含む) →問6へ

3: 使用していない(しないと思う) →(2)を回答の後、問8へ

(2) 携帯トイレを使用していない(しないと思う)理由は何ですか？(複数可)

1: 携帯トイレブースがないから 2: 携帯トイレを使う際の隠れる場所がないから

3: 便意を催さないから(小便だけだから) 4: 携帯トイレは使用に時間がかかるから

5: これから縦走が遠く、使用済み携帯トイレを持ち歩くのがイヤだから

6: 天気が悪くて使いにくいから 7: その他(_____)

問 6. 使用したのは大便ですか、小便ですか？

1: 大便で使用した(これからする) 2: 小便で使用した(これからする)

3: 大便でも小便でも使用した(これからする)

問 7. 沼ノ原野営指定地のどの場所で携帯トイレを使用しましたか(これから使用しますか)？

1: テントから遠く離れた先(見えない場所) 2: テントから離れた植生の陰

3: テントからある程度離れた場所(小さく見えてもかまわない) 4: テント付近の草地

5: テントの中 6: その他(_____)

問 8. 沼ノ原大沼野営指定地のトイレ問題について、あなたの考えをお聞かせ下さい。次の中から選んで○をつけてください。

1: 現状のままでよい 2: 携帯トイレブースを設置する

3: 環境配慮型 山岳トイレを設置する

4: その他(_____)

～ あなたご自身についてお伺いします ～

問 9. あなたの性別はどちらですか？ (1: 男性 2: 女性)

問 10. あなたの年齢について、あてはまるものに○をつけて下さい。

1: 10代 2: 20代 3: 30代 4: 40代 5: 50代 6: 60代 7: 70代以上

問 11. あなたがお住まいの都道府県と市町村をご記入下さい。

(_____)都・道・府・県 (_____)市・町・村

ご意見・ご感想がございましたらお書き下さい。

**大雪山国立公園 携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及キャンペーン（富良野岳）について**

大雪山国立公園連絡協議会

(1) 携帯トイレブース（テント式）の設置

1) 設置期間：令和6年6月27日～8月19日（計54日間）

2) 設置場所：富良野岳登山道のお花畑

3) カウンターの数値：161回（2.98回/日）

4) 維持管理協力機関

東川管理官事務所、上川南部森林管理署（GSS）、十勝岳ジオパーク推進協議会、十勝岳じおくらぶ、上富良野山岳会、大雪山国立公園パークボランティア

(2) 携帯トイレ普及キャンペーンの実施

携帯トイレ普及キャンペーンでは、下記の3日間、携帯トイレ使用の呼びかけ及びアンケートを実施した。

1) 令和6年7月20日（土）

実施機関：十勝岳じおくらぶ

アンケート回収数：27名

2) 令和6年7月21日（日）

実施機関：東川管理官事務所、富良野緑峰高校山岳部

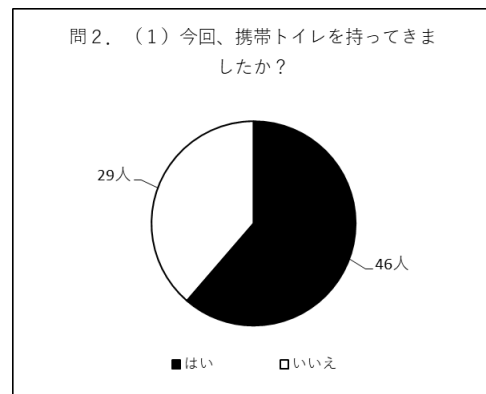
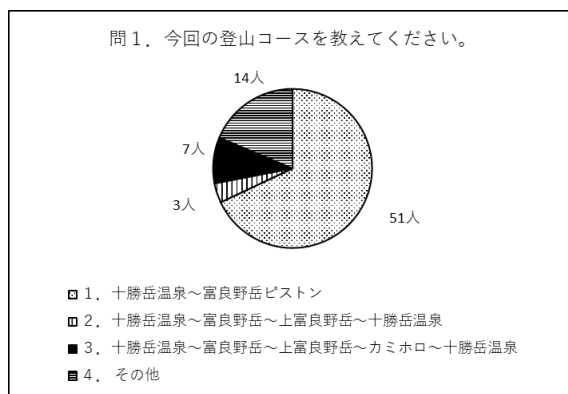
アンケート回収数：41名

3) 令和6年8月4日（日）

実施期間：上富良野山岳会

アンケート回収数：7名

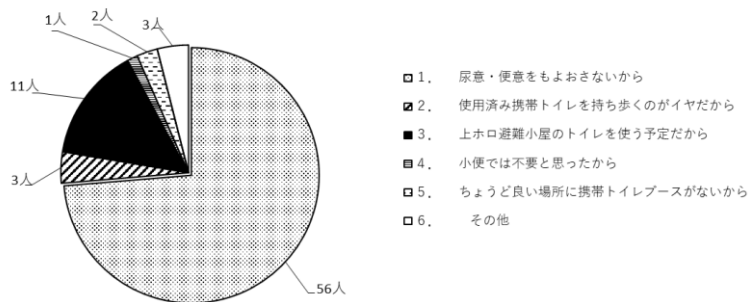
4) アンケート結果（回収合計：75名）



問2. (3)

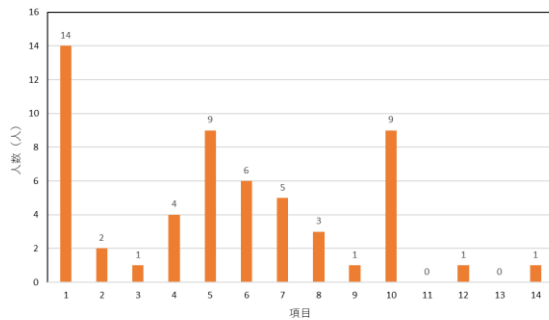
(2)で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。

今回、携帯トイレを使用しない理由を教えてください。(複数回答可)



問2. (4)

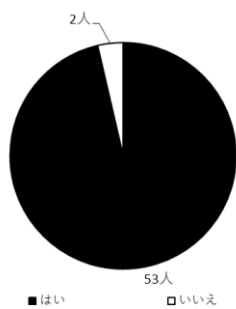
(2)で「いいえ」と答えた方にお尋ねします。今回、携帯トイレを持ってきていない理由を教えてください。(複数回答可)



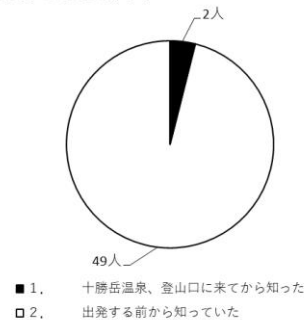
項目一覧

1. 使える場所(携帯トイレブース)がないと思ったから
2. 携帯トイレが何か分からないから
3. 購入場所が分からないから
4. 使うのが面倒だから
5. 使い方に自信がないから
6. 処分方法が分からないから
7. 処分が面倒だから
8. 使用済み携帯トイレを持ち歩くのがイヤだから
9. 荷物が増えるから
10. 日帰り登山のため尿意・便意をもよおさないから
11. 携帯トイレの購入にお金がかかるから
12. 普段は持ち歩いているが今日は忘れた
13. 必要だとは思わないから
14. その他

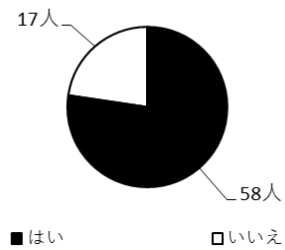
問3. 大雪山ではし尿散乱による問題が起こっているのは知っていますか？



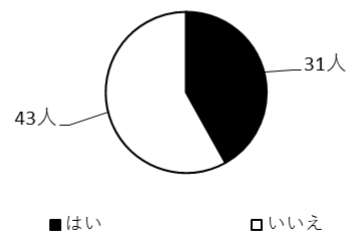
問4 (2) (1)で「はい」と答えた方にお尋ねします。それは次のどちらですか？



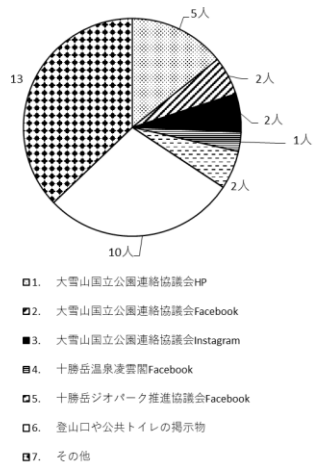
問4 (1) 大雪山全域で携帯トイレの利用をお願いしていることを知っていましたか？



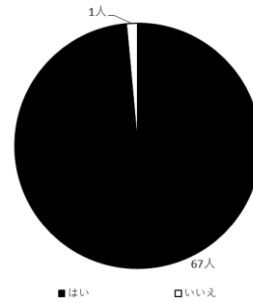
問5 (1) 富良野岳に携帯トイレブースが設置されるのを知っていましたか？



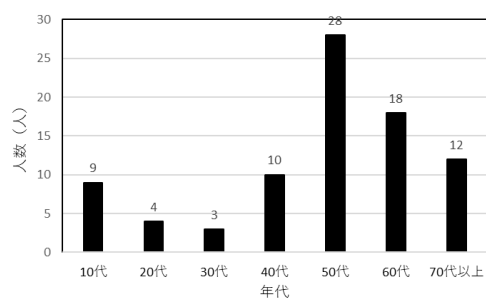
問5 (2) (1)で「はい」と答えた方にお尋ねします。何で知りましたか？
(複数回答可)



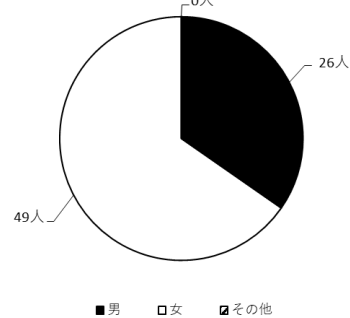
問6 富良野岳に携帯トイレブースが設置されたら、立ち寄り使用しますか？

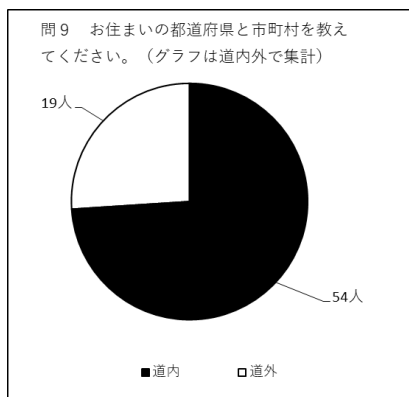


問7 年代を教えてください。



問8 性別を教えてください。





問 11 大雪山のトイレ問題に関して自由記載欄

- ・やっぱり他人のクソとティッシュはいいもんじゃない
- ・いい取組だと思います
- ・みんなで意識改革
- ・設置してあって良かった
- ・富良野岳分岐にもあったら良い
- ・マナーを守ろう！
- ・トイレは設置必要だと思います。携帯トイレを持ち歩く以外の改善策をみんなで考えましょう。
- ・携帯トイレの販売を登山宿泊所ですると良いと思います。
- ・携帯トイレブースが増えると嬉しいです。
- ・トイレブースがあるのはとても助かります。
- ・携帯トイレを配りまくる（コンビニ等）
- ・今後は積極的に使いたいと思います。
- ・トイレブースがあるととても助かります。ありがとうございます。
- ・今年の富良野岳ルートの設置はとても助かります。
- ・携帯トイレブースがあると安心感があります。
- ・自然が守られるよう願ってます。登山者高い意識を持てると良い。
- ・入山口で集金できるシステムがあれば良いですね。現実的に難しいですが。マナーを守らない登山者も増えてる気がする。
- ・国立公園とうたうなら携帯トイレでなく、本当のトイレを設置するべき。携帯トイレは絶対に100%普及しない。
- ・きれいに使用することを広めてほしい。
- ・せっかく用意してくれたブースは大切に使いたいです。
- ・8時間かかる山では携帯トイレが必要。

5) 富良野緑峰高校山岳部生徒へのアンケート結果

問 1	普及キャンペーンに参加いただく前から大雪山ではし尿散乱による問題が起こっているのは知っていましたか？	はい⇒ 2 いいえ⇒ 1
問 2	普及キャンペーンに参加いただく前から大雪山全域で携帯トイレの利用をお願いしていることを知っていましたか？	はい⇒ 1 いいえ⇒ 2
問 3	普及キャンペーンに参加いただく前から携帯トイレを使用していましたか？	はい⇒ 1 いいえ⇒ 2
問 4	参加前に携帯トイレを使用していなかった理由（複数回答可） ①使える場所（携帯トイレブース）がないと思ったから ②携帯トイレが何か知らなかったから ③購入先が分からなかったから ④使うのが面倒だから ⑤使い方に自信がないから ⑥処分方法がわからないから ⑦処分が面倒だから ⑧使用済み携帯トイレを持ち歩くのが嫌だから ⑨荷物が増えるから ⑩日帰り登山の場合は尿意・便意をもよおさないから ⑪携帯トイレの購入にお金がかかるから ⑫普段は持ち歩いているが今日は忘れた ⑬必要だと思わないから ⑭その他	⑩⇒ 1 無回答⇒ 2

問 5	使用したことのある携帯トイレの種類を教えてください	ピーボトル 無回答⇒2
問 6	携帯トイレを使用していて、ここを改善すればもっと使いやすくなるのにと考える点がありますか？	無回答⇒3
問 7	携帯トイレを使用していて、ここを改善すればもっと使いやすくなるのにと考える点がありますか？	・テントが置きやすいところを知らせる
問 8	携帯トイレの利用についてどのような取組・対策をすれば一般登山者に（特に若い世代）普及すると思いますか？	・テントが置きやすいところを知らせる。 ・携帯トイレを手軽に利用できるようにトイレの中に袋を入れておく
問 9	今回携帯トイレ普及キャンペーンに参加して感じたこと、気づいたこと、ご意見等を自由に記載ください。	・登山している人たちは話しやすい人が多いので、携帯トイレ以外で用を足す人は思ったより少ないのか？と思いました。
問 10	学年	1 年⇒2 2 年⇒1
問 11	性別	男⇒3

携帯トイレ及び回収ボックスのピクトグラム統一について

大雪山国立公園連絡協議会

1. 経緯

コロナ収束後、大雪山国立公園内でもインバウンド登山者が増加しており、山岳域の携帯トイレブースの存在を知らずに登り、間違った方法で携帯トイレブースを使ったことによる汚破損が発生するなどの課題が見られる。

大雪山国立公園内及び北海道内でも、携帯トイレブースや回収ボックスのピクトグラム、さらに携帯トイレの英語訳が複数あり統一されていない。これは、携帯トイレになじみのないインバウンドへの周知が進まない1つの課題と考えられる。

以上のことが、令和5年度に、環境省、旭岳ビジターセンター、山のトイレを考える会、大雪山自然学校、adventure hokkaido で実施した意見交換会で話題となり、インバウンド登山者にも分かりやすいピクトグラムへの統一の必要性が認識された。

2. ピクトグラムについて

環境省信越自然環境事務所が作成した、妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準である携帯トイレブース及び回収ボックスのピクトグラムが非常にわかりやすいことから、妙高戸隠連山国立公園のへの使用の打診をしたところ了承を得た。令和6年度作成英語版グレードマップから使用を開始し、大雪山国立公園内の関連広報物で統一的に活用したいと考えている。



▲妙高戸隠連山国立公園サイン統一デザイン基準のピクトグラム

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言推進事業
携帯トイレ普及目標に応じた効果検証について

大雪山国立公園携帯トイレ普及宣言の内容	宣言を実現するための取組事項 (目標設定、効果検証に係るもの)	活動実績（アウトプット）						成果実績（アウトカム）						
		指標	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	指標		R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
1. 携帯トイレを適切に使用することで雄大で原始的な景観と共存する登山を推進します。	○野営指定地等における野外し尿ゼロを目指す							⑦主要箇所における、巡視等1回あたりの野外し尿排出痕跡数	美瑛富士	3.7	3.1	2.2	1.6	2.7
								痕跡数／巡視回数	トムラウシ	7.0	4.0	2.0	2.5	2.0
2. 登山者に快く携帯トイレを使ってもらえるような環境づくりを行います。	○携帯トイレブースの設置や維持管理	①携帯トイレブースの設置箇所数	9	10	14	14	12	⑧携帯トイレブース使用回数	美瑛富士	203	201	142	231	365
		箇所							トムラウシ	532	640	564	770	921
	○携帯トイレの回収体制の構築	②携帯トイレ回収ボックスの設置箇所数	11	12	12	12	12							
		・回収の実施主体、維持管理体制が整っているものに限る。	箇所	箇所	箇所	箇所	箇所							
	○利用者向け情報発信	③大雪山国立公園連絡協議会facebook、登山情報における携帯トイレ関係記事の発信数	25	34	39	41	13							
			・毎年6月～10月の記事を対象	記事	記事	記事	記事							
3. 登山者に対して携帯トイレの利用を推進するための呼びかけを行います。	○携帯トイレの持参の呼びかけ	④携帯トイレ普及キャンペーン実施箇所数	2	5	5	3	1	⑨登山者の携帯トイレ持参率(%)		-	38.8	43.7	41.8	54.3
	○（常設トイレは適切に使用し、）携帯トイレは常設トイレがない箇所で使用。							⑩下山者数あたりの使用済み携帯トイレ回収数	トムラウシ	0.33	0.38	0.31	0.42	0.28
4. 携帯トイレの普及に協力してくれる人の輪を広げます。	○携帯トイレ普及パートナーの拡大	⑤携帯トイレ普及パートナー数	8	8	8	8	8	⑦⑧⑨⑩⑪に同じ。						
		・年度末における登録数	パートナー	パートナー	パートナー	パートナー	パートナー							
	○携帯トイレ販売箇所数の拡大	⑥大雪山国立公園オリジナル携帯トイレ卸数	2525	1655	3083	3058	2231	⑪登山用品店等における携帯トイレ販売箇所数		31	36	36	36	35

※令和6年度の数値については、令和7年1月時点

R6年度 登山口別携帯トイレ持参率

管轄	登山口	登山者数	持参者数	持参率
上川中部 森林管理署	黒岳	23,828	11,495	48.2%
	銀泉台	8,981	4,816	53.6%
	緑岳	2,334	1,975	84.6%
	沼ノ原	803	700	87.2%
	美瑛富士	820	726	88.5%
	天人峡	317	224	70.7%
上川南部 森林管理署	凌雲閣	7,583	5,423	71.5%
	白銀荘	724	433	59.8%
	原始ヶ原	66	28	42.4%
南部森林室	愛山溪	1,365	924	67.7%
	RW姿見駅	17,046	6,370	37.4%
	RW山麓駅	815	304	37.3%
	天女が原	373	184	49.3%
十勝西部 森林管理署 東大雪支署	南ベトウトル山	227	147	64.8%
	東ヌプカウシヌプリ	2,168	1,366	63.0%
	白雲山鹿追側	2,277	1,314	57.7%
	白雲山士幌側	1,214	881	72.6%
	ニペソツ山	659	593	90.0%
	ユニ石狩岳	184	163	88.6%
	トムラウシ山温泉口	69	54	78.3%
	トムラウシ山短縮口	2,252	2,115	93.9%
	十勝岳新得側	6	6	100.0%
	合計	74,111	40,241	54.3%

提供：

上川中部森林管理署入林簿

上川南部森林管理署入林簿

十勝西部森林管理署東大雪支署入林簿

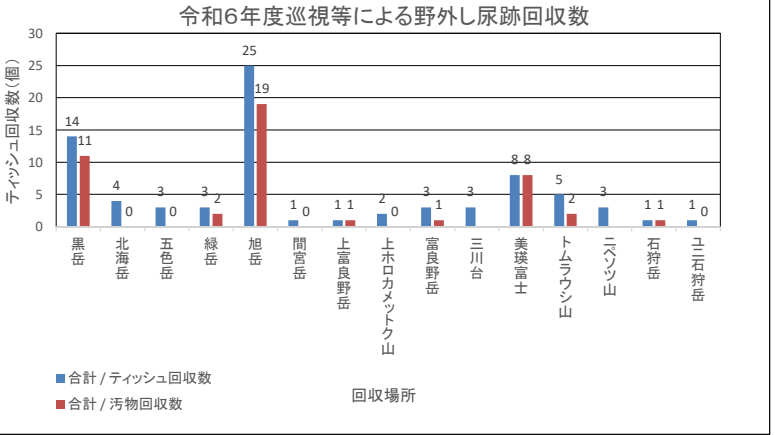
上川総合振興局南部森林室入林簿

表1. 令和6年度巡視等による野外し尿跡数等確認結果(確認内容一覧)

報告者	月	日	場所	詳細な場所	ティッシュ	汚物	備考	ティッシュ回収数	汚物回収数
大雪山NPO	6	8	黒岳	9合目付近雪渓上	0	1		0	1
大雪山NPO	7	4	三川台	分岐付近	3	0		3	0
東川RS	6	27	富良野岳	通称お花畑	3	0		0	0
東川RS	8	19	富良野岳	通称お花畑	0	1		3	0
東川RS	9	29	上ホロカメットク山	カミホロ・富良野岳分岐	2	1		0	1
東川RS	10	3	旭岳	ニセ金庫岩	0	1		0	1
東川RS	10	3	間宮岳	間宮分岐手前の岩陰	1	0		1	0
上士幌RS	6	20	ニベソツ山	前天狗野営指定地	1	0		1	0
上士幌RS	7	3	トムラウシ山	南沼野営指定地	3	0		3	0
上士幌RS	7	4	五色岳	山頂西方ハイマツ帯の登山道上	0	0		0	0
上士幌RS	7	4	五色岳	山頂西方ハイマツ帯の登山道上	3	0		3	0
上士幌RS	8	21	ユニ石狩岳	十石峠付近	1	0	水に溶けにくいウェットティッシュが登山道脇ハイマツの中に	1	0
上士幌RS	8	22	石狩岳	シュナイダーコースc1280付近	1	1	登山道脇ササの中に下痢状(汚物回収できず)	1	1
上士幌RS	9	19	トムラウシ山	南沼野営指定地	4	1		4	1
上士幌RS	9	19	トムラウシ山	トムラウシ公園東斜面	0	1	岩の隙間に大人用紙おむつ	0	1
上士幌RS	9	29	上富良野岳	D尾根	1	1	灌木の陰に軟便(汚物回収できず)	1	1
GSS	6	14	黒岳	8合目上部	1	1	冬期利用者の汚物が溶けずに残っていた	0	0
GSS	7	11	黒岳	7合目入口すぐ	1	1		1	1
GSS	7	11	黒岳	9.5合目	0	1		0	1
GSS	7	19	黒岳	8合目手前の広い所	1	1		1	1
GSS	7	19	黒岳	8合目手前の山側斜面	1	0		1	0
GSS	7	19	黒岳	9合目手前の山側斜面	1	1		1	1
GSS	7	30	黒岳	山頂右側ハイマツの後ろ	1	1		1	1
GSS	9	24	黒岳	山頂手前	1	1		1	1
GSS	9	24	黒岳	9合目標識近く	1	0		1	0
GSS	9	24	黒岳	8合目より上の導流工	1	0		1	0
GSS	9	24	黒岳	8合目手前の広い所の奥	3	1		3	1
GSS	10	2	黒岳	7合目登山口上がってすぐの導流工	1	0		1	0
GSS	10	2	黒岳	7～8合目の導流工	0	1		0	1
GSS	10	9	黒岳	山頂手前のハイマツ	0	1		0	1
GSS	7	16	緑岳	エイコの沢～コマクサ広場の間	1	0		1	0
GSS	7	25	緑岳	樹林帯のダケカンバカーブの少し上	1	1		1	1
GSS	8	28	緑岳	登山道上	0	1		0	1
GSS	8	30	緑岳	エイコの沢～コマクサ広場の間	1	0		1	0
GSS	9	24	北海岳	北海岳への登り途中の藪の下	1	0		1	0
GSS	9	24	北海岳	北海岳の登りはじめのカーブの奥	2	0		2	0
GSS	9	24	北海岳	北海沢の窪み	1	0		1	0
NPOかむい	7	28	黒岳	8合目付近	3	1		3	1
東川町大雪山国立公園保護協会	6	2	旭岳	旭岳石室周辺	1	1	汚物とティッシュの放置	1	1
東川町大雪山国立公園保護協会	6	5	旭岳	旭岳石室裏	1	0		1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	6	12	旭岳	旭岳石室裏	1	0		1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	6	27	旭岳	旭岳石室周辺	1	1	石室ドアの横に排泄、ティッシュあり	1	1
東川町大雪山国立公園保護協会	6	29	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	使用済み携帯トイレの放置	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	7	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	便のカスが残っていて臭い	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	10	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	使用済み携帯トイレの放置	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	11	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	1 コンビニ袋に便が入っていた	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	13	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	0	便器のバケツに直接尿を排泄	0	0
東川町大雪山国立公園保護協会	7	17	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	便器のバケツに直接便を排泄	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	23	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	1 便器のバケツに便がこびりついていた	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	7	29	旭岳	旭岳石室内	0	1	1 チャック付き食品袋に排泄物を入れて放置	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	8	11	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	1	1 便器のバケツに直接便がしてあり手ぬぐいが置かれていた	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	8	25	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	0	0	1 便座に直接排泄されることが多いため、バケツを撤去	0	0
東川町大雪山国立公園保護協会	9	12	旭岳	旭岳石室裏	1	0		1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	9	15	旭岳	姿見園地第三展望台付近	1	0	1 便を石で隠していた	0	1
東川町大雪山国立公園保護協会	9	22	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース周辺	1	0	0 尿を拭き取ったようなティッシュの放置	1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	9	29	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	1	1	1 便座下に子どもの便とティッシュあり	1	1
東川町大雪山国立公園保護協会	10	5	旭岳	姿見園地第四展望台付近	1	0		1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	10	9	旭岳	旭岳石室裏	1	0	0 石室入口にティッシュの放置	1	0
東川町大雪山国立公園保護協会	10	17	旭岳	旭岳石室携帯トイレイレブース	1	0		1	0
美瑛富士トイレ管理連絡会(山のトイレを考える会)	6	23	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	1	0		0	0
美瑛富士トイレ管理連絡会(大雪山国立公園パークボランティア連絡会)	7	7	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	2	3		2	3
美瑛富士トイレ管理連絡会(道央地区勤労者山岳連盟)	7	21	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	2	1		2	1
美瑛富士トイレ管理連絡会(札幌山岳連盟)	7	27	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	0	3		0	3
美瑛富士トイレ管理連絡会(北海道山岳ガイド協会)	9	24	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	1	1		1	1
美瑛富士トイレ管理連絡会(山のトイレを考える会)	9	29	美瑛富士	美瑛富士避難小屋周辺	2	0		2	0
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	7	10	旭岳	登山道上	1	0		1	0
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	7	10	旭岳	ニセ金庫岩	3	0		3	0
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	7	19	旭岳	裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	0	1	携帯トイレ使用せずそのまま小便を排泄	0	1
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	8	17	旭岳	裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	0	1	携帯トイレ使用せずそのまま小便を排泄	0	1
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	9	14	旭岳	裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	1	1	携帯トイレ使用せずそのまま小便を排泄	1	1
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	9	16	旭岳	ニセ金庫岩	2	0		2	0
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	9	21	旭岳	裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	0	1	携帯トイレ使用せずそのまま大便を排泄	0	1
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	9	23	旭岳	裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	0	1	携帯トイレと便座のサイズが合わず、失敗?	0	1
令和6年度大雪山旭岳周辺登山道における携帯トイレブース設置効果検証業務	9	30	旭岳	ニセ金庫岩	8	0		8	0
合計					77	45		77	45

表2. 令和6年度場所毎における野外し尿跡等確認結果

場所	合計 / ティッシュ回収数	合計 / 汚物回収数
黒岳	14	11
7合目入口すぐ	0	1
7合目登山口上がってすぐの導流工	1	0
7～8合目の導流工	0	1
8合目手前の広い所	1	1
8合目手前の広い所の奥	3	1
8合目より上の導流工	0	1
8合目付近	3	1
8合目上部	1	1
9合目手前の山側斜面	1	1
9合目標識近く	1	0
9.5合目	1	1
山頂手前	1	0
山頂手前のハイマツ	0	1
山頂右側ハイマツの後ろ	1	1
北海岳	4	0
北海岳への登り途中の藪の下	1	0
北海岳の登りはじめのカーブの奥	2	0
北海沢の窪み	1	0
五色岳	3	0
山頂西方ハイマツ帯の登山道上	3	0
緑岳	3	2
エイコの沢～コマクサ広場の間	2	0
樹林帯のダケカンバカーブの上	1	1
登山道上	0	1
旭岳	25	19
旭岳石室周辺	2	2
旭岳石室裏	4	0
旭岳石室内	0	1
姿見園地第三展望台付近	0	1
姿見園地第四展望台付近	1	0
旭岳石室携帯トイレイレブース	2	9
旭岳石室携帯トイレイレブース周辺	1	0
旭岳登山道	1	0
ニセ金庫岩	13	1
裏旭野営指定地携帯トイレイレブース	1	5
間宮岳	1	0
間宮分岐手前の岩陰	1	0
上富良野岳	1	1
D尾根	1	1
上ホロカメットク山	2	0
富良野岳分岐	2	0
富良野岳	3	1
お花畑手前の登山道	3	1
三川台	3	0
分岐付近	3	0
美瑛富士	8	8
美瑛富士避難小屋周辺	8	8
トムラウシ山	5	2
南沼野営指定地	5	1
トムラウシ公園東斜面	0	1
ニベソツ山	3	0
前天狗野営指定地	3	0
石狩岳	1	1
シュナイダーコース登山道C1280m付近	1	1
ユニ石狩岳	1	0
十石峠付近	1	0
	77	45



(期間: 令和6年(2024年)6月1日～10月31日)

大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会の設置について

大雪山国立公園連絡協議会

令和4年5月設置

(令和6年5月改定)

大雪山国立公園連絡協議会規約第11条に基づき、次の作業部会を設置する。

1. 作業部会の名称

大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会

2. 作業部会の目的

大雪山国立公園では、野営指定地や登山道上におけるし尿排泄の問題が改善に至っていない状況にあることから、場所ごとの特性に応じ携帯トイレを利用しやすい環境づくりを進めるための検討を行うとともに、既設の常設トイレ等の再整備や改善策に関する検討を行うもの。

3. 検討内容

- (1) 野外へのし尿排泄の問題が見られ改善が必要とされる野営指定地等における、携帯トイレを利用しやすい環境づくり（携帯トイレブースの設置、維持管理、回収体制の構築、利用者向けの情報発信）
- (2) 既設の常設トイレ等の再整備及び改善策
- (3) (1)、(2) の検討にあたって必要な事項

4. 検討体制

大雪山国立公園連絡協議会会長が指名した次の者により構成する（名簿別紙）。

- (1) 大雪山国立公園連絡協議会の構成員のうちの希望者
- (2) 登山道維持管理部会（表大雪地域、東大雪地域）の構成員及びオブザーバーのうちの希望者
- (3) (1)、(2) の他、会長が出席を求める者

また、本作業部会に、検討の方向性を示し有効な議論を導くための役割をとして、コーディネーターをおくものとする。

5. 設置期間の考え方

本作業部会は、野外へのし尿排泄の問題が見られ改善が必要とされる課題箇所及び既設の常設トイレ等の再整備及び改善策について、基本的考え方及び対応方針が明らかにされるまでの間設置するものとする。

大雪山国立公園連絡協議会
大雪山国立公園山岳トイレ等検討作業部会名簿

大雪山国立公園連絡協議会構成員
北海道地方環境事務所
上川中部森林管理署
上川南部森林管理署
十勝西部森林管理署東大雪支署
かみふらの十勝岳観光協会
(株) りんゆう観光
道北バス (株)
大雪と石狩の自然を守る会
十勝自然保護協会
北海道大学大学院環境科学研究院 渡邊 悌二教授
北海道大学大学院農学研究院 愛甲 哲也教授
北海道上川総合振興局
北海道十勝総合振興局
富良野市
上川町
東川町
美瑛町
上富良野町
士幌町
上士幌町
鹿追町
新得町
層雲峡ビジターセンター
表大雪/東大雪登山道維持管理部会構成員・オブザーバー
NPO 法人かむい
Asahidake Trail Keeper
NPO 法人大雪山自然学校
勤労者山岳連盟 (道央地区)
合同会社北海道山岳整備／一般社団法人大雪山・山守隊
山樂舎 BEAR
大雪山倶楽部
TREE LIFE
山のトイレを考える会
美瑛山岳会

山岳レクリエーション管理研究会
NPO 法人ひがし大雪自然ガイドセンター
十勝山岳連盟

2024 年 4 月現在 合計 36 機関・団体

※作業部会開催時においては、名簿に記載のない登山道維持管理部会構成員及びオブザーバーに対しても案内を行なうこととし、幅広い協議体制を確保する。